

登山時報

2022年8月15日発行(毎月15日発行)
1987年3月23日第三種郵便物承認
ISSN 1880-4993

9

雲上の湯と山

2022 No.571



日本勤労者山岳連盟

第23回全国ハイキング交流集会

広げよう仲間の経験を！
増やそう仲間を！

開催日 2022年10月1日(土)～2日(日)
開催場所 山口県セミナーパーク
主催 日本勤労者山岳連盟
(担当：ハイキング委員会)
主管 山口県勤労者山岳連盟
開催規模 70名～80名(宿泊40名)
参加費 4,000円(1泊2食)
※日帰り参加者は1,000円

<申込・問合せ先>
日本勤労者山岳連盟・事務局
TEL:03-3260-6331 Mail:jwaf@jwaf.jp
フリーダイヤル:0120-44-2742(平日10～18時)

開催内容

1日(土)	12:30～	受付
	13:00～	開会
	13:30～15:30	記念講演 「IT時代の山岳遭難(スマホを活用した安全登山)」 登山ガイド 木元 康晴さん
	15:30～18:00	交流分科会 ①会・クラブ運営と会員拡大 (役員の確保やリーダー養成、ハイキングセミナー、例会運営など) ②山行活動について (パーティ編成・バスハイク・コロナ対策・トレーニングなど) ③安全登山のために (持病対策・ココヘリ・スマホの活用など)
	18:30～	夕食
2日(日)	7:00～	朝食
	9:00～	分科会報告・閉会挨拶
	9:30～	交流ハイキング説明
	10:00～	交流ハイキング ※陶ヶ岳 300m を3～4コースに分れて、2～4時間

【会場案内】

山口県セミナーパーク 山口市秋穂二島 1062 番地
山陽自動車道 山口南ICから車で約5分
山陽新幹線 新山口駅からタクシーで約15分(8.5km)
JR山陽本線 四辻駅からタクシーで約5分(約3km)

管理:公益財団法人 山口県ひとづくり財団 ☎083-987-1410



施設情報ページ



メコノプシス・タイロリー

天空の青いケシ

ネパール花探索 ①

写真・文 松永秀和



メコノプシス・スタイントニー

マルデ・ヒマール・コルチョンヒル、標高 3660m

ネパール第2の都市、ポカラから北を望むと雪を戴いたアンナプルナの山々が見渡せる。その中でも鋭角三角錐をすくくと立っているのが、魚の尻尾と呼ばれるマチャプチャレである。この南稜先端部がマルデ・ヒマールで、アンナプルナI峰の展望台として人気が高い。1954年英国人プラントハンター、スタイントンらはこの山域で2種の大型の青いケシを採集した。ひとつは当時の青いケシの大家、G・テイラーの名前を取り、メコノプシス・タイロリーと名付けられ、もう一つは自分の名からメコノプシス・スタイントニーとした。後者は生育域が広いため多くのトレッカーの目に留まったが、前者は長らく標本しかない「幻の青いケシ」であった。

2014年、植物写真家、梅沢俊氏夫妻が記録を基に採集したとみられる自生地を訪ね、撮影に成功した。60年ぶりの再発見であった。梅沢氏の報告を聞き、3年後、同地を目指す。ネパールでの最初の花探索だった。2日間で3000m登り、ヒルの巣窟を突破。たどり着いた台地には天上のバレリーナが乱舞していた。そして帰路、M・スタイントニーと霧の中の邂逅を果たせた。



門内小屋テント場のミヤマシシウドと夕日

四季の山岳撮影紀行

第5回 晩夏の北飯豊縦走

写真・文 宮本宏明

スケールの大きな飯豊連峰に長年憧れていたが、夏の休暇はやはりアルプスに向かつてしまい、飯豊に登る機会をなかなか作ることが出来なかった。サラリーマン生活を卒業した年の9月上旬、北股岳から杵差岳きさしを縦走する計画を立てた。マイカーでアプローチするため、天狗平から梶川尾根を門内岳へ登り、北股岳を往復。さらに杵差岳を往復して丸森尾根を天狗平に戻るコースだ。縦走登山としては非効率だが、主稜線を往復することで同じ場所を時間帯を変えて2度撮影できる、贅沢な計画だ。

前日の朝に横浜の自宅を出て、道の駅に寄ったりスーパーで食料を買ったりしながら、登山口の天狗平までのんびり1日かけて車を走らせた。飯豊町の染川温泉で入浴し、暗くなる直前に登山口の駐車場に到着した。早速車の中に居住空間を作って一人宴会。今回網戸を作ってきた

ので窓を開けられるが、山深い谷間だといふのにとても暑く、シュラフに入ることができない。

入山初日は4時起床。夜中は暑かったがまあまあ眠れた。隣で準備していた登山者の話では、今朝の気温は24度だが、この時期にこれほど気温が高いのはこれまで経験したことがないとのことだった。

梶川尾根は、いきなり壁のような急登で始まった。樹間から主稜線が見えている。予想外の暑さに吹き出す汗の量が半端ではない。頭に巻いたバンダナも、首にかけた手拭いも、何度も絞らなければならぬほど汗でびしょ濡れになった。湯沢峰で一旦視界が開けたが、いつの間にかガスに包まれてしまった。一旦湯沢峠に下り、再び急登になったところで突然本降りの雨になった。慌てて雨具を着たが、間もなく小降りとなり、あまりの暑さにすぐに脱いでしまう。この後は降ったり薄日が射した

り、何度も雨具を脱ぎ着することになった。水の消費が激しく、五郎清水で給水。登山道から少し下るが、全身に染み渡る美味しい水だった。ここで腹ごしらえも。

梶川峰まで激しい登りが続いたが、梶川峰からは樹林帯を抜け、広々とした緩やかな尾根となった。雨は小康状態となり、一瞬薄日も射した。稜線に出た所が扇ノ地紙。門内小屋まではなだらかな稜線を1ピッチ。トリカブトの群落などを撮影しながらのんびりと歩いた。

門内小屋の一段下にテントを張ってから水場へ。水の出が細く水筒に入れるのに時間がかかるが、冷たくて

美味しい水だ。テントに戻り、背負ってきたビールを飲む。またパラパラと雨が落ちてきたが、夕方になってガスが切れて飯豊の山々が姿を見せてくれた。けれども夕日を見ることは出来なかった。明日の天気は期待薄だ。19時にシュラフに入った。

食後、テントのすぐ横に三脚を立てて日の出を待つ。北股岳から梅花皮岳が一望のもとに眺められるベストポジションだ。日が昇ると稜線にちょうど良い光が当たり、前景に咲き残りの花を入れたり工夫しながら撮影を楽しんだ。

二日目の朝は3時起床。天気予報に反して晴れている！朝

軽いザックで北股岳をピストンする。清々しい朝の光の中、



朝の梅花皮岳と北股岳



頼母木小屋は縦走路のオアシス

飯豊らしい雄大な風景の中の稜線散歩。頂上には誰も居なかった。記念撮影をしてテントに引き返した。

テントを撤収し、杵差岳を目指す。ペースは快調、1ピッチで地神山まで来てしまった。いつの間にかガスが湧いてきた。これから向かう頼母木山と、その先に頼母木小屋がいい雰囲気で見えられた。なだらかな稜線をのんびり進み、頼母木小屋に到着。稜線にある小屋なのに豊富に水を引いてあるのが嬉しい。美味しい水をガブ飲みしながら昼食にする。ここは人気があるようで、既にテントが3つ張られていた。

ここに泊まりたい気持ち振り切って出発。大石山の登りに差し掛かったところで、不意にガスが切れて杵差岳が姿を現した。大きい！最後の登りがきつそうだ。大石山から一気に140メートル下った鞍部で休憩し、鉾立峰の登りに取り掛かる。今日一番の急登に厳しい暑さが

加わり汗が吹き出す。鉾立峰からまた少し下って登り返すと、霧の中から杵差小屋が現れた。最後にヨレヨレにくたびれてしまった。

風が強くなってきた。テントを張ってから水を汲みに行ったが、かなり下った所にわずかな水が湧き出しており、水たまりからすくって水筒に入れる形で、イマイチだった。

テントに戻り、水場で冷したビールを開ける。サイコーだが、あつという間に飲み干してしまった。遠くで雷がゴロゴロしている。少しずつ近づいてきて、雨もパラパラと落ちてきたので、いよいよ雷雨になるかと思ったが、結局これでおしまい。突然明るくなったかと思うとガスが切れて夕日が見えた。大急ぎでカメラを持って山頂に上がったが、このまま天気が回復するわけでもなく、ガスに包まれたり太陽が出たりの繰り返しで、あまり成果はなかった。夕食後に星空になったので三脚を立てた



ガスが切れ机差岳が現れた



山頂直下の机差小屋



雲の大河／机差岳山頂より

が、すぐに濃密なガスに包まれてしまい三脚もカメラもびしょ濡れに。シャッターを押すことはなかった。20時就寝。

最終日、3時15分起床。文句なしの晴天となった。朝食後、山頂に上がると反対側に見事な滝雲が流れていた。日の出前なのでスローシャッターを設定し、雲の流れを表現。一面の雲海から日が昇る。雄大な飯豊の山々

に、小さな山小屋がアクセントを添えている。西側には日本海、そして越後平野に机差岳が影を落としていた。

テントを畳んで机差小屋を後にした。朝の光を受ける花を撮影しながら歩く。昨日苦労した鉾立峰も下りはあっけない。大石山への上り返しは風がなく暑が意外に近く感じられたので、休憩せずに一気に行くことにし

た。昨日汲んだ水ではなく、頼母木小屋の美味しい水を飲みたい。実際は思ったより時間がかったが、水の引力で頑張ることができた。昨日賑わっていた頼母木小屋だが、今日は誰も居ない。水をたらふく飲み、持っている水も入れ替えて30分ほど休憩し、元気を取り戻した。頼母木山へ登ってゆくと、沢の源頭斜面の先に机差岳が格好いい。地神北峰まで登って休憩。

ここで最後の展望を楽しんだ。丸森尾根は草原の中の登山道が雨で浸食されてガラ場状になっており、歩きにくい。涸れ滝のような岩場の段差もあり、転倒しないよう細心の注意を払って歩く。道の真ん中に熊の糞があった。2日前くらいの感じ。樹林帯に入っても道が深くてぐれている所や、スリップしたらアウトのザレ場が多い。夫婦清水は尾根道から脇に入っすぐの所に流れる素晴らしい水場。ここでもたっぷりと給水。尾根の最後は岩稜となり、疲れた足で踏み外さないよう、声を出して自分自身に注意喚起しながら慎重に下った。車道を少し上り返して車に戻った。

汗まみれの服を着替えて車にザックを放り込み、温泉を探す。道の駅に隣接している桂の関温泉ゆゝむに寄って3日間の汗を洗い流した。

雲上の湯と山

温泉基点の山々



煙草屋の窓からの風景

温泉宿「三斗小屋へ」

竹澤美恵子 宇都宮ハイキングクラブ/栃木

紅葉時季の那須連山への山旅は、どのコースを辿っても満足することと思う。茶臼岳を眺めながら育った私は、子供会の旅行で何度も那須登山を楽しんだものだ。また、寒々とした冬空にメラメラと輝くダイヤモンドのような夜景に感動していた。そんな那須連山のもう一つの魅力は、三斗小屋に泊まり、温泉を楽しんだり満天の星空を觀賞したりすることのよう

だ。
私にはなかなかチャンスが無

かったが、4年前に夫が紅葉を楽しみながら温泉に入る山旅を計画し、クラブの仲間5人で1泊2日のハイキング「白笹山〜三斗小屋温泉」に出かけるチャンスがやってきた。

10月中旬、1日目は沼原駐車場〜白笹山〜南月山〜日の出平〜牛ヶ首〜姥ヶ平〜沼原分岐〜三斗小屋温泉「煙草屋」で1泊。2日目は、三斗小屋温泉〜三斗小屋宿跡〜沼原温泉分岐〜展望台〜沼原駐車場に戻る周回コースである。

標高1267mの駐車場から出発し、青々としたモミヤアスナロなどの樹林帯をしばらく歩くと、植生が変わり背丈ほどもあるササの間を抜ける。登山口から約1時間50分で白笹山に着く。紅く色づいたドウダンツツジに囲まれて一休みしたら南月山に向かう。稜線に沿って約1時間歩くと視界が広



白笹山 山頂からスタート地の沼原を



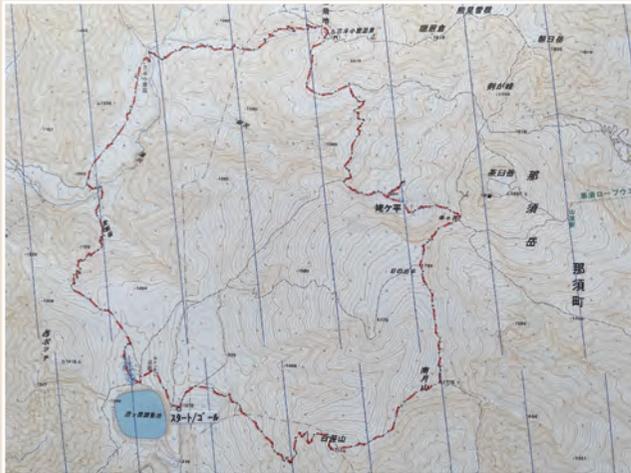
姥ヶ平 ひょうたん池より茶臼岳を望む



三斗小屋温泉 煙草屋



紅葉の山路を行く



ルート図（地理院地図を加工して利用）

がる。前方に雄大な那須連山、南側には黒尾谷岳が堂々と聳（そび）えている。ササの中を注意深く進むと南月山だ。標高1776mの山頂からは360度の展望が楽しめる。振り返ると通って来た白笹山が穏やかな山容を見せている。さらに景観が素晴らしく人気のルートである日の出平から牛ヶ首・姥ヶ平へと、赤や黄や緑のコラボの絶景を楽しみながら進む。茶臼岳が目前に迫ってくる迫力や噴煙を上げるエネルギーからパワーをもらい、1日目の目的地三斗小屋温泉（標高1450m）へと急ぐ。

沼原分岐から三斗小屋までは、シラカバやブナやダケカンバなどの紅葉に癒されながら気持ちよく歩けた。スタートから約6時間で温泉が湧き出ている山小屋に着いた。山小屋の通路の下を音を立って温泉が流れていた。噂には聞いていたが初めて見た温泉宿に感激。宿は大黒屋と煙草屋の2軒あり、私たちは煙草屋に泊まった。障子張りの落ち着いた部屋で一休みすると、待望の温泉だ。露天風呂は、昼間は時間制で男女交互に入るが、夜は混浴になるそう。乳白色の温泉で囲いもなく広々としており、のんびり疲れをとるには最高である。入浴後は山のご馳走が待っている。箱膳の夕食は残すことなくきれいに戴いた。食事が終わりにかけた夜7時頃、玄関の方が賑やかになった。20名近いツアー客が朝日岳の方から歩いてきたようだ。私

が「みなさんどこにお住いですか？」と尋ねると、「福岡で、今日は麓の温泉宿から歩きました」「一度は来てみたいところでしたから満足です」と、嬉しそうに高齢の方々が答えてくれた。さらに、「ナナカマドの赤い実も素晴らしいですね。80歳までにもう一度来生きたい。」と、生き

場町として栄えた三斗小屋宿跡を通過した。神社跡や石仏、墓石などがかつての暮らしを偲（しの）ばせ、感慨深かった。4年前に夫と二人で深田久弥氏の選んだ日本百名山を達成したが、私たちの住んでいる栃木県には立派な魅力ある山が沢山あることに気付いた。これからは郷土の山々をもっと大事にしたいと思う山旅だった。



原田勇成の

白神便り

| 第 61 回 |

白神の麓に移住して21年が経った。移住といえば少々大袈裟になるかもしれない。実家は車で1時間弱の秋田県能代市だから。とはいえ、育った場所は街の中心部であるから、それとはかけ離れた環境に気持ちは移住という感じではあった。現在の我が家は日本海の波打ち際まで100m程で、海越しに白神岳の稜線を仰ぎ、東はわずかなエリアに民家が集中し、その奥はもう広大な白神山地へと続く森となる。とにかく生活の中に自然を実感しながら日々を送っている。街暮らしでは味わえない暮らしがここにはある。

海の幸はもちろん、川だってイワナやヤマメ、サクラマスやアユを提供してくれる（私は釣りはしないので、もっぱら頂き物だが）。そして山の幸。春の葉物山菜から始まり、秋のキノコまで好きな時

に好きな場所へ行けばいい。収穫期間は半年間に限られても、缶詰や塩漬けにして、味は年中楽しむことができる。

9月、マイタケやナラタケ（こちらでは、サモダシと呼んで一番身近なキノコ）などといったキノコが話題となり始める。誰が何処でどれだけ採ったとか、誰からどれだけ貰ったとか。生活の中に普通にある食材なのだ。街のスーパーでも売ってはいるが、採った人の顔が分かるのが大きな違い。写真は10年以上前のもの。今では父親と山を歩くことはない娘たちとサモダシ採りに出かけた。雨上がりであったのだろう。キノコが濡れて光っている。小さな手で嬉しそうに、丁寧に収穫していた。今思えば、かけがえのない時間だった。

9月の思い出

登山時報

2022 **9** No.571

表紙写真：宮本宏明

「秋色の地蔵岳」

紅葉シーズンの週末、台風が接近していたため泊まりの予定を急遽変更し、日帰りで鳳凰三山を巡った。稜線部はまさに紅葉が始まったところで、ダケカンバの黄色とナナカマドの赤が地蔵岳のオベリスクを彩っていた。



CONTENTS

- | | | | |
|----|--------|--|----------------------|
| 01 | 連載 | 中国の青いケシ探訪記 | 松永秀和 |
| 02 | 連載 | 四季の山岳撮影紀行 | 宮本宏明 |
| 06 | 特集 | 雲上の湯と山・温泉基点の山々
温泉宿「三斗小屋へ」 | 竹澤美恵子 |
| 08 | 連載 | 白神便り | 原田勇成 |
| 10 | ふみあと | 登山文化を守り、継承するため全登研集会で語り合しましょう | 久保典子 |
| 11 | 連載 | 子づれ山さんぽ | 武井真理 |
| 12 | | 全国登山研究集会を開催 | |
| 14 | 特集 | 雲上の湯と山・温泉基点の山々
赤岳鉱泉と食事
九重山 法華院温泉
十勝岳温泉と吹上温泉 | 尾根田勝
重藤秀世
山本裕之 |
| 19 | 連載 | 山楽登山の世界 | 中川和道 |
| 20 | | 全国遭難対策担当者会議を開催 | |
| 22 | 連載 | 登山と技術 | 横山一隆 |
| 24 | 連載 | アドベンチャー・トラベル | 大蔵喜福 |
| 26 | 連載 | 山登りのための やさしい気象講座 | 野尻英一 |
| 28 | | 専門委員会活動報告 | |
| 31 | | 全国連盟の活動 | |
| 32 | マンガ | フウフウ ハアハア | 村松孝一 |
| 33 | インタビュー | ひと 平尾繁和 | |
| 34 | 連載 | 地図読み迷人 宮内佐季子 小泉成行 監修：村越 真 | |
| 36 | 特集 | 雲上の湯と山・温泉基点の山々
霧島温泉と韓国岳 | 大村真由美 |
| 39 | | 筑井孝子のちょっと人物・物をうまく描こう / あらかると 石井光造 | |
| 40 | 連載 | 山の自由帳 | 篠塚優 |



「登山時報」はリサイクル可能なソイインク
(大豆油インク)を使用しています。

登山文化を守り、継承するため 全登研集会以語り合しましょう

全国登山研究集会（全登研集会）を10月29（土）～30（日）に東京で開催する。

全登研集会は、全国の仲間が登山活動のなかで、組織拡大、遭難対策、自然保護など具体的な活動経験を全国の仲間と交流し学びとる場として、登山の運動・組織を前進させる大きな原動力となってきた。

集会内容は、最初に新理事長川嶋高志からの「基調報告」を行う。これは、今年の2月の総会で登山の役員体制が新しくなった。新理事長から、全国登山は2020年以降のコロナ禍でどのように登山活動に向き合ってきたのか。また、これからの登山界はどの

ように変わっていくのか、について報告することになっている。

記念講演は、三俣山荘の支配人伊藤圭氏に、「山と人と街プロジェクト」（仮題）―伊藤新道の復活、三俣山荘図書室、山小屋の未来―について話していただく。伊藤圭氏は登山創設者伊藤正一氏の御子息で、古い登山会員なら伊藤正一氏の山小屋、三俣山荘経営を支援する「雲上の集い」に参加された方も多いのではないだろうか。伊藤圭さんは厳しい自然の中で通行不能になっっている「伊藤新道」の復活にも取り組んでいて、この秋には歴史ある登山道が復活する予定とのこと。貴重な話

を聞くことができる機会となる。

分科会は講演を生かす形で、4分科会とし、運営面も①「山小屋の諸問題」はハイキング委員会、②「登山道と遭難対策」は遭難対策部、③「岩場のマナーとアクセス」は青年学生委員会、④「魅惑のトレイル、その楽しみ方」は実行委員会と、全国登山の総合力で実施していく。

参加者が「自由に語り、学び、ふれあい交流」のある楽しさを満喫できる集会として企画した。実行委員はじめ、理事・役員は総力をあげて集会日を迎えたいと考えているので、多くの方の参加をお願いしたい。

（久保典子／日本勤労者山岳連盟 副理事長）

子づれハイキングやキャンプの最盛期に活躍しそうな、ちょっとしたのしいグッズ、かつ、長く使えるようなグッズを紹介します。

キャリア・ザ・サン 「スモールウォームライト」

ランドポート社 ¥3,190 - (税込)

※灯りの色が違う「スモールクールブライト」¥3,190 -、ひと周り大きなサイズの「ミディアムライト」シリーズ¥4,290 -も展開しています。



箱型のキャリア・ザ・サン。上部がソーラーパネルになっています。カラーでお見せできないのが残念ですが、とてもやさしい光です(私は「ウォームライト」タイプを愛用)

大人気、やさしい光のソーラーランタン。太陽の光さえあれば、どこでも充電可能!という、とても画期的な灯りです。

上部のソーラーパネルに太陽光をあてるだけで充電、という気軽さ。替えの電池の携行からも解放されます。電池いらすなので、こどもが取扱うときにも、電池の誤飲等の心配がなく安心。収納もコンパクトで、歩きながら、車で移動しながら…の充電も可能。明るさの調節もボタン一つなので、こどもにも簡単にできます。

防災用品として備えても◎。キャンプなどで普段からソーラーランタンに触れる機会があれば、こどもにも「いざという時にこういうものがある」と、身近に感じるきっかけになるかもしれません。

エネルギー源の確保が環境に負荷が少ないうえ、操作も容易。製造元のランドポート社は、電気が通っておらず不便な思いをしている途上国へ灯りをとどける仕組みや、使えなくなった灯りをリサイクルする仕

組みも確立しています。登山用品の世界もSDGsへの取り組みが叫ばれるようになってきましたが(環境への負荷が少ない染料を使う等)、キャリア・ザ・サンは、その先駆けといえるでしょう。



テントの頂点にぶら下げて、キャリア・ザ・サンの灯りに照らされる。

子づれ 山さんぽ[®]

できるかな? 行ってみよう!

vol.62

やま

武井真理 カモシカスポーツ

七瀬 2015年6月生まれ
峻 2018年7月生まれ



～番外編～
夏のテント泊
盛り上げグッズ編

カモシカオリジナル 「木の Spoon」

¥880 - (税込)

※文字入れサービス無料。2週間～1ヶ月ほどお時間をいただきます。



こどもの名入れもできる、木の Spoon

あたたかみのある、木の Spoon。カモシカスポーツでは、この木の Spoon に、山にまつわる言葉を刻印して販売していますが、お客様のご希望の文字を入れるサービスも行っています!「こどもの名入れ」も可能なので、私も、自分のこどもや、姪用につくってもらいました。プレゼントにもおすすめ。山ごはんの盛り上げにいかがでしょうか。

専門スタッフが、1本1本、手作業で文字を入れているため、お時間がかかります。詳細は店頭にてお尋ねください。



名入りの Spoon を手にして



2007年8月に黒部ダムから上ノ廊下を遊行。水量多く、沢の中で3泊した。源流から登山道を三俣山荘まで40分。

2022年10月 全国登山研究集会を開催
伊藤圭氏の記念講演に期待する

川嶋高志 / 日本勤労者山岳連盟 理事長



三俣山荘の展望食堂でコーヒーを飲みながら伊藤正一さんと山小屋の課題について1時間程話し込んだ。ここから眺める北鎌尾根と硫黄尾根を配した槍ヶ岳は絶景だ。



2011年8月は美濃で有名な赤木沢へ。この時は雲ノ平にエビスのロング缶を1ダース歩荷して高高原温泉で入浴もした。



黒部川奥ノ廊下、赤木沢出合はミニナイヤガラと言われる素敵な場所だ。

富山・岐阜・長野と3県の県境にある三俣蓮華岳は北アルプスの中央にあり、訪れるためには3千m級の高山を越えるか、黒部川を遡らなければならぬ。通常は山中1泊を要し、国内では交通機関から最も遠い山と言えぬ。労山創立の立役者、伊藤正一氏が、ここで山小屋を経営することを決断したことは勇気ある英断だと考える。そして雲ノ平と呼ばれる黒部川源流は、苦難を乗り越えて山小屋を経営する価値のある、まさに「雲上の楽園」といえる。

山小屋が無ければ、この楽園に来る人は大きく限定されただろう。多くの困難を克服して三俣山荘等の経営を引き継いでいる伊藤圭さんから、今後の希望や未来について、考えを話していただく。人工物に囲まれて日常生活を送っている私たちに、豊かな自然からのメッセージを伝えてくれることだろう。



赤岳山頂を望む 手前の建物は赤岳天望荘



赤岳鉱泉

赤岳鉱泉と食事

尾根田勝 野木山想会／栃木

八ヶ岳の主峰、赤岳（2899m）には様々な登山ルートがあるが、ここでは今年5月の連休明けに登った美濃戸口から入るルートを紹介したい。このルートにある赤岳鉱泉は、南八ヶ岳のベースキャンプ的な存在で、マイカーだと中央道諏訪南ICから約10km、15分程度で美濃戸口に到着し、ここから歩き始めることになる。今回はもう少し

先の美濃戸まで車で行ったが、かなりの悪路のためオフロード車以外は避けた方が無難だ。公共交通機関の場合はJR中央線茅野駅から美濃戸口までアルピコバスで40分ほどかかる。八ヶ岳山荘のあ

る美濃戸口からスタートする場合、1時間ほど林道を歩くと今回私たちが車を止めた赤岳山荘、美濃戸山荘のある美濃戸に到着する。美濃戸からは赤岳鉱泉に向かう北沢コースと行者小屋に向かう南沢コースがあり、赤岳に登るだけなら登山口が近い行者小屋の方が便利だが、今回は赤岳鉱泉に宿泊するため北沢ルートをとった。赤岳鉱泉に宿泊するのには大きな理由が二つある。第一に「鉱泉」とあるように、お風呂（檜風呂）がある（入浴は5月から10月の夏季のみ）。そしてもう一つ有名なのが夕飯。毎日ではないが、運が良ければステーキが振る舞われる。また、夏の週末や休日等には日本登山医学会認定の山岳医及び山岳看護師の有志が山岳診療所を開設しており、傷病者のファーストエイドを行っているのも登山



連が良ければ振る舞われるステーキ



アイスクャンディではアイスクライミングの練習が行われる



八ヶ岳連峰で唯一の山岳診療所が開設されている



ルート図 (地理院地図を加工して利用)

【行程】

5月7日(土) 美濃戸 9:40 > (140分) > 12:00 赤岳鉱泉 硫黄岳の途中まで往復し 14:00 再び赤岳鉱泉(宴会)

5月8日(日) 赤岳鉱泉 7:00 > (60分) > 8:00 行者小屋 8:10 > (100分) > 9:50 地藏ノ頭 10:25 > 10:35 赤岳天望荘 10:45 > (45分) > 11:30 赤岳山頂 12:00 > (120分) > 14:00 行者小屋 14:20 > (160分) > 17:00 美濃戸

者にとつてはありがたい事だ。
今回の日程は時期的に風呂に入れるかどうか微妙な所だったが、今年は幸い早めにお風呂が使えるようになっていた。5人6人で一杯になってしまいうさなお風呂(男女別)だが、偶然すごい方たちと湯船につかることができた。二人でテント泊をしていたその方たちは、トランスジャパンアルプスレースを指しているトレイルランナーで、その過酷なレースの事を知っていた私は、その引き締まった身体と自分の弛んだお腹を見比べながら、ストイックな姿勢に聞き入ってしまった。

そして夕飯。今回は見事にステーキの日を引き当てた。生ビールを注文して乾杯。翌日の赤岳登頂に向けて、残雪の状況はどうだろうか、アイゼンを着けたり外したりの繰り返しになりそうだから、いつもより時間がかりそうなどと、部屋に戻ってから缶ビール片手に消灯まで会話が続いた。
翌日、行者小屋まで行った後、裏手から地藏尾根を登る。はじめは緩やかな針葉樹林帯だが、次第に傾斜がきつくなり、左に大同心の岩峰、右に阿弥陀岳の山容を拝めるようになると、階段や鎖場、岩場やザレ場の連続

になる。地藏尾根のシンボルとなっているお地藏様が現れると横岳と赤岳を結ぶ主稜線(地藏ノ頭)はもうすぐだ。近くに赤岳展望荘が見え、その先の少しきつい尾根を登り詰めると赤岳山頂に到着する。この日は天候にも恵まれ、阿弥陀岳や横岳、硫黄岳といった八ヶ岳の山々だけでなく、遠く北アルプスや富士山も望むことができた。

下山は文三郎道を辿った。こちらも階段や鎖場があり気が抜けないが、やがて現れる樹林帯を抜ければ行者小屋に到着だ。帰りはこのまま南沢ルートをとって美濃戸まで降りた。
今回は春夏登山だったが、赤岳鉱泉周辺はロッククライミングやアイスクライミングのできるフィールドが多くあり、冬にはアイスクャンディと呼ばれるアイスクライミング練習施設も設置される。八ヶ岳の冬は寒く、気温はマイナス20度近くになることもあるが、魅力も沢山ある。何回でも行きたくなる山だ。

九重山 法華院温泉

重藤秀世 奥岳山の会／福岡

雲上の湯と山 温泉基点の山々

九重連山を臨む

九重山は新しい山

九重山は標高1000mの高原に聳える山岳群で、九州本島の最高峰・中岳(1791m)を中心に久住山、大船山、三俣山、稲星山、平治岳、黒岳を擁する。立ち上る硫黄山の噴気は火山活動の象徴であり、山麓から高原地帯の各所に温泉地が見られる。

この山々の真っ只中に「坊がつる」湿原があり、その一角に法華院温泉(1300m)が佇む。視界いっぱい湿原と山々と囲まれた景観はまさに別天地といえよう。初夏、緑の湿原と相和しミヤマキリシマが平治岳の上半をピンクに染める。

「坊がつる讃歌」の舞台は、キャンプの盛況で伝統のキャンプ場に色とりどりのテントの花が咲く。その坊がつるに入るには、峠を越えてゆくことになる。長者原からはスガモリ越、雨ヶ池越がそれで、最高所の牧ノ戸峠を起点に久住山へ登ってから法華院温泉に投宿

するケースも多い。

法華院の法灯

法華院は約400年の歴史を有する天台宗の白水寺で、明治初めに神仏分離の廃仏毀釈が進む中で最後に留まった坊である。現在の弘蔵氏は第26代院主。別棟の観音堂では日々の勤行が行われる。

2015年6月、東日本大震災の支援ボランティア活動を機縁に、宮城県連と九州の県連の交流登山が行われた。観音堂での鎮魂・復興祈願法要の後、宮城から運んだ記念碑を前庭に安置した。法華院を訪問の際は、立ち寄って彼の日



鎮魂・復興記念碑

雲上の湯と山

温泉基点の山々



安政火口分岐手前より



三峰山沢右股

十勝岳連峰

十勝岳温泉と吹上温泉

山本裕之 札幌北稜クラブ／道央地区

表題の原稿の依頼があったときに真っ先に頭に浮かんだのが十勝岳温泉の「凌雲閣」だ。今から42年前、私が札幌北稜クラブに入会した年の氷雪入門

でのこと。勤労感謝の日の前日の夜、10時20分発の夜行「からまつ」に乗って札幌駅を発った。深夜到着した上富良野駅のベンチで仮眠し、早朝発のバスに乗って凌雲閣を目指す。バスの中でうたた寝をしていると、腰に「G」を感じて目を覚ます。どうも急傾斜をバスは登っているようだ。窓に目を向ける

と、真っ白な雪の世界が広がっていた。下界はまだ雪が無かったので頭の中が混乱する。凌雲閣温泉の駐車場で身支度をして出発。1時間半ほどで標高1450mの安政火口のベースキャンプ地に着いた。ここで3日間、雪上訓練を行う（数年後、雪崩の危険性からベースキャンプの標高を下けている。2007年11月23日には実際に大規模な雪崩事故が発生し安政火口を直撃、4名の犠牲者を出している）。

全ての訓練が終了した後、疲れ果てた体を凌雲閣の湯で癒やしたのが今でも忘れられない。

十勝岳温泉 凌雲閣

凌雲閣は、十勝岳連峰の標高1280mにある正に雲上の温泉宿。

凌雲閣をベースに、富良野岳やD尾根経由で上富良野岳、上ホロカメットク山を日帰りで登ることができる。健脚者は、さ

らに十勝岳を往復することもできる。

安政火口手前の地点から見る上ホロカメットク山の頂上岩壁や八つ手岩、ばけもの岩などの風景は、まるで外国の山をトレッキングしているような気分になせられる。

★三峰山沢右股が

沢登りおすすめのコースだ！

凌雲閣の駐車場に車をデポし、吹上温泉への分岐まで車道を下る。分岐を少し過ぎたあたりの林道から三峰沢へ入渓する。開けて綺麗な川底の沢を楽しめる。標高1170mの二股をつめるとほぼ富良野岳山頂付近に出る。夏道を下って凌雲閣温泉で一汗流し終了（所要時間9時間）。



凌雲閣温泉

夏道を下って凌雲閣温泉で一汗流し終了（所要時間9時間）。

山楽登山の世界 essay

5

マダニ新感染症、関東への襲来

中川和道 O W C C 大阪勤労者登攀クラブ／大阪

兵庫県連の仲間がマダニ感染症で息を引き取ったのは2018年9月7日。「私そんなに悪いの？」が最後の言葉だったという。兵庫でも大阪でもマダニ被害の学習会が急きょ開かれた（『事故防止は仲間の知恵で』2021年、大阪府連発行P58）。感染症4種のうちSFTS（重症熱性血小板減少症候群）だけは、ワクチンも治療薬もない。SFTSは関東にはなかったが、最近、ついに千葉県に達した（日経2021年7月3日）。関西での学習会が参考になれば幸いである。

被害の全容・実態・病状・忌避薬品の利用法などはすでに一般知識になって久しいので、ここでは、具体的行動に立ち入った議論の部分を紹介する。

私が咬まれた体験では、ダニを除去せずに直ちに医者に来いと言われた。ダニをつけたまま直径1cm深さ5mmくらいがっほり皮膚を切り取り保存。傷は2針縫合。3日間のうちに発熱があったらすぐ来院せよ、皮膚の組織培養を行って病原体を特定し、治療薬を決定するという。もしSFTSだったらどうなるの？と聞

いたら、治療薬はないので、熱をさまざまの対処療法しかできない、本人の自然治癒力がウイルスに勝てば直るが負けたらアウトだね、という。ひえ。SFTSは4類感染症だからご遺体、葬儀には保健所への相談が義務だ。ご遺体の体液はウイルスを含むからである。感染ペットの体液から感染したとの報道もある。葬儀に親族が立ち会えないかもしれない感染症の恐ろしさを、関西の山仲間たちは、コロナ前、2018年の学習会で知った。

学習会では、家族からのブリーングを背景に、家にダニを連れ込まない方策を議論した。まず、「家の外で服を払ってから家に入る」、これが結構むずかしい。家の外とはどこか？そりゃあ玄関の外だろう。そこ（玄関の外）で服を払うのか？ 待って待って、玄関の外で服を脱ぎズボンを脱ぎ、それを振って払うのか？ これはいかにも怪しいだろう。夕方に薄暗くなった玄関の外に立つと、これがまた、要らんことに、玄関外灯が自動点灯する。近所の方々の目にとまりでもした

ら、風評被害がそれこそ怖い。いやいや、風評でなく実際あやしい。それで、私は、風呂場にまず行き、湯がぬのわきで服を脱いでそれを振り、タイルの上に落ちるのであるうダニを待ち受けた。普段は風呂ではかけない老眼鏡もこの時は必須装備だ。実際にやってみて、「これ有効かなあ」と仲間にあやうなたら、「ダニの逃げ足は速い。間に合はんかもなあ。」「ぶ、じゃあ、どうするねん？

次に、「ザックからダニを出す」。ダニがいるザックを家に持ち込んだら、これはおどろきだ。そこで、下山した鉄道駅やバス停でザックの中身を全部出し、ダニなしを確認してからビール乾杯を試したが、これは面倒くさい。ビールを片手にじっと待つ仲間の視線も痛い。行きついたのは、登攀を終えて装備をザックに詰める作業を、終了点の広い岩の上でやること。ダニが逃げ出したとしてもこれなら検知できる。結局これが今のところの最善策だ。

大阪での対策討論はあつという間に時間がたち、90分では全然足りなかった。聞けば、北海道でもダニ咬傷の報告が何件かあるとか。全国のみなさん、ダニ対策は、いかに？

大阪労山ニュースに連載中のエッセイ「山楽登山の世界」のうち19回目（2019年10月号 <http://owafnews.aikotoba.jp/kikanshi1910.htm>）に後日談を加えてマダニ咬傷被害を紹介する。関西にしかなかったマダニ感染症 SFTS（重症熱性血小板減少症候群）がついに千葉県へ襲来したこの機に、注意を喚起する。

7年振りの地方開催と久しぶりの対面会議

石川昌／全国遭難対策部長



開催地を代表して挨拶する赤間宮城県連会長

7月2日と3日、宮城県仙台市の「エスポールみやぎ」にて遭難対策担当者会議が開催され、24地方連盟から35名、全国連盟から12名、合計47名が参加。初日は、全国遭対部から事故分析の基調報告、柳川遭対部員（外科医）から「山とコロナとがん検診」の講義、次に4地方連盟（宮崎・佐賀・兵庫・宮城）の事故事例報告。19時からは夕食を兼ねた交流会。2日目は、「UIAAハンドブックの使い方からの遭難対策」と題して、大和田遭対部員から講義があり、その後、参加者一人ひとりから発言し12時前に終了。午後からは、希望者が岩場の環境整備に取り組んでいる鎌倉山の視察を行った。

事故分析で明らかにしたこと

開会の挨拶で、赤間宮城県連会長からは「全国の会議を地方

都市仙台で開催する意義とこの会議が安全登山に繋がることに期待している。」川嶋全国理事長からは「久しぶりの地方開催で、南は、沖縄・熊本・佐賀、北は、北海道から多くの県が参加して

頂いたことに感謝すると共に近年の事故事例や事故分析を地方に伝えて頂き事故防止のヒントにして貰いたい」と両氏からの熱い思いが伝えられた。

続いて、石川から、基調報告としてコロナ禍の下で事故の実態や変化についてデータを基に分析・説明した。初めての感染者が出て以来2年半が過ぎた今日でも、コロナ終息の目途がつか

かない状況で、登山活動域の変化が顕著に表れ、三密を避ける意識から近郊地域での遭難が急増している実態が判明。感染拡大の時期でも、普段アウトドア活動や登山を行わない者まで気軽に山間部に入り込む結果が、低山での事故者数増加に繋がった。警察庁の山岳事故概況では、2020年にアルプス地域での事故が著しく減少し2697人となった。2021年には東京都・兵庫県・神奈川県が事故発生件数の上位になりアルプス地域も含め事故者が大きく増加（3075人）した。年齢分布も60歳以上が約半数を占め、中高年と呼ばれた40歳以上の割合は約8割に達している。遭難者の年齢分布からも高齢化する団塊世代が安全登山の鍵となっている。労山の事故状況は、2020



岩場の環境整備が行われている鎌倉山（通称ゴリラ山）

年大きく減少した事故者数（236人）から2021年（269人）と増加に転じている。60歳以上の事故者は6割を占め高齢化の現状が示されている。時間帯では、10～11時と13～14時に集中している。2021年の登攀事故（44名）の10～11時台19人・13～14時台15人と年間の登攀事故の約8割がこの時間に

発生している。下山時の事故数は、108人（約4割）この内77人（約7割）が転倒事故。労山でも、60歳後半から70歳世代の動向が鍵を握っている。下山時の転倒事故も含めて、安全登山に繋がる対応を事故事例や事故分析から導き普及・活用していきたい。

医学面からの提言

講義「山とコロナとがん検診」では、元気に山に行くためには、病気になる。なつてもすぐに見つける。「山で病気を発症しない為に、がん検診を受けましょう。」とがんが専門の柳川医師から最初の一声で始まった。熱中症では、予測・予防・早期発見・早期対応が大切。「暑さ指数を用いた指針」を分かりやすく説明した。「がん」は、コロナ禍でがん検診が減少している事により早期発見が難しくなり、更に増加する事が予想され、検診の重要性を改めて指摘した。

事故事例報告では、「冬の八ヶ岳（天狗岳）遭難事故」鬼頭氏（佐賀勤労者山岳会）、「大山北壁遭難事故」門脇氏（神戸クライマーズクラブ）、「鎌倉山の事故」橋本氏（朋友会）、「銚岳山頂付近の心疾患による死亡事故」宮崎県連など、多くの資料を頂き、教訓を得るものがあつた。

UIAAハンドブックの使い方から遭難対策

総合登山技術ハンドブックの訳者である大和田氏は、この本の特徴と活用方法を丁寧に説明した。遭難事故に関わりがある「思考の偏り」「正常性バイアス」について参加者の多くが理解している事を自覚できた。その後、参加者全員から、この会議に寄せる思いや各県連の状況や各会の現状等について率直な発言があり、コロナ禍により県連や各会の運営に支障がある現状も見えてきた。

討議のまとめとして、討議の内容は不十分な所があつたが、この会議を対面で行えたことで各県連の状況や現状が見えて意義のある会議が出来た、遭難防止は仲間の知恵を進めて行きたいと話した。最後に臼井労山基金運営委員長の閉会の挨拶で終了した。

開催地から

宮城県勤労者山岳連盟

遭難対策部長

橋本治

北は北海道から南は沖縄まで、全国から多くの方々が集まっていた。この会議を仙台で開催できたことをとても嬉しく思います。コロナ感染再拡大も心配されていましたが、全ての日程を無事に終え、親睦を深めることができ本当に良かったです。また宮城にお越しの際は、お知らせください。四季折々の素晴らしい山がありますので、ご紹介したいと思います。

登山と技術

第4回

山岳事故でいちばん大切なことは「事故者の命を守る」ことである。軽症の場合は自力下山など、コンパニオンレスキューで最善を尽くすこともあるが、根拠のない判断で重症化や後遺症を残すことにつながる場合もある。今回はヘリ救助についての判断と手順を紹介する。

(編集部)

いざという時のヘリコプターの救助要請の判断と手順

横山一隆

(千葉山の会元会長・千葉県連盟救助隊長)



搬送される要救助者 (2012年4月・伊豆半島)

40年ほど前からカメラマンとしてヘリに搭乗し全国で山岳撮影をしている。長野オリンピックでの滑降コースの中継や映画「岳」、日本百名山の空撮なども担当。東邦航空、中日本航空、朝日航空、アカギヘリコプターなどのヘリ会社とも提携。現在はドローンを使った撮影も多く、北アルプスや南アルプス、尾瀬などの自然番組にも参加している。自身約2千回の飛行経験があり遭難者捜索にも従事している。

良かれと考えてしたことが

事故を起こしたら怪我の状態や体調を慎重に確認し、ヘリの助けが必要か否か、要救助者を動かす前に判断する。大切なのはやたらに動かさないこと、決して「大丈夫ですか」などと聞かないことだ。リーダークラス

負って運んだことが原因で以後車椅子生活になった。もし、現場でヘリにピックアップしても良ければ、そうはならなかったかもしれない。良かれと考えて対応したことが状況を悪化させることもあると認識しておいた方がよい。

は聞かれれば大丈夫と答えてすぐ歩き出してしまい深刻なことになったり、出血部位が分からず傷を広げてしまったたりすることもある。槍ヶ岳の頂上直下で女性が転倒した事例では、ヘリがピックアップしやすいようにと肩の小屋まで運んだが、脊髄損傷を起こしていたらしく、背

頭や腕などの怪我で足が使えない場合、自力下山できるかもしれない。又、足を傷めて歩けない場合でも仲間に屈強なメンバーがいて、背負って短時間で下ろせるのであればヘリ要請の必要はない。しかし中高年登山者が多い現在の登山では、無理に背負って腰を痛めたり、思いのほか大変で転んだり、二次事故を起こしやすい。サポートメンバーも不慣れで役に立たない場合が少なくなく、要救助者の苦痛と負荷、様々なリスクを考えるとヘリを要請したほうが無難なことが多い。

ヘリ要請の判断と待機場所

事故者をとりあえず降ろせる所まで降ろし、手に負えなくなったらヘリを要請しようと考え、どんどん下山する。そして、いよいよ無理となつてヘリを要請。すると携帯電話も繋がりにくくなり、結局救助連絡に益々時間を浪費する。またヘリにとつては低い標高が作業し易いとは限らず、むしろ谷が深くなったり、周囲の樹木が密集してきたり、木々が高くなるなど困難度合いが増す。貴重な時間が失われ、日没近くの出勤で慌ただしくなり、救助ヘリにとつては危険度が高くなる。ヘリ救助を要請するのであれば、下山を一番に考えないこと。むしろ、少し登ったほうが上空の開けた安全なホイスティックアップポイントに辿り着ける場合もある。稜線で風が強い時、稜線から少し下った風下側は風が弱い。そのため、そのような場所で待機したくなるが、待機場所の上空では強烈な下降気流が発生していることも多い。更に機

体重量を軽くする必要が発生し、せつかく到着したヘリも燃料の重量を減らすために一度空港に帰ってしまうこともある。余剰パワーも必要で、そのような場所はホイスト作業の危険性が高い。救助ヘリの安全性も考慮し、ヘリが来る前に稜線や稜線上の開けた場所に移動することが有効である。

連絡は110番、 合図は光るもの！

警察の担当官と繋がるとメモを取る必要があるため筆記用具を用意する。一度繋がった携帯電話は、次は警察からの連絡を受ける役割を持つので、いつでも受信出来るようにしておく。仲間への安否連絡や山の会に報告するのは、他の人の携帯電話で。警察ヘリを出動させるか消防防災ヘリを出動させるかは先方が決める。GPSが有れば緯度経度を伝え、無い場合は待機場所を具体的に説明する。風や

雨、霧などの天候状況も伝えると良い。こちらが樹林帯で待機している時や、薄暗くなつている時はヘリからは発見しにくいので、デジカメのフラッシュや最近のヘッドランプに付いている点滅機能を使ってヘリに知らせる。

ピッケルやストックの先に目立つ色の服など付けて振るか、レスキューシートを広げて振るのも効果的。服装は、一般的に赤、黄色、オレンジなどが目立つ。紅葉シーズンの樹林帯ではブルーなどが分かり易い。普通は要救助者だけ搬送されるので、要救助者のザックから共同装備などのパーティーに必要なものは取り出しておく。個人の健康保険証や免許証、現金などの貴重品は忘れず持たせよう。要救助者が搬送された病院は、下山して警察に聞けばわかる。以上の注意点はヘリが飛べる条件での話だ。現実には悪天候や日没でヘリが出動できないことも珍しくない。使用している

ヘリの機種も違い、特性や性能機能に違いもある。パイロット判断で飛行対応も様々。いかにヘリとの連携を安全に速やかに行うか、ヘリに対する理解を深め救助条件を理解することが我々登山の仲間を守ることであるし、救助に関わってくださる警察、消防の隊員の皆さんに負荷を掛けないことだと思う。現在、警察消防の山岳救助に対応できるヘリは100機以上ある。安易な要請が問題になっているが、現実はそのほど発生していない。官庁のヘリは予算を組んで運用しているので1回毎に幾ら掛かるといふ批判は当たらない。むしろ要請を躊躇して事を悪化させる方が多いくらいである。官庁のヘリ態勢が充実してきたこともあり、現在民間ヘリは搜索を除きほとんど活動していない。ヘリ救助態勢も日々進化しているので、私の説明で不備な点もあるかも知れない。全国連盟にいろんな情報を提供いただければ幸いである。



地域振興への展望が見えた —初めての登山相談所—



登山届を確認後、登山道の危険箇所や水場、道迷い箇所、携帯の通信状況など情報をプリントで渡し説明する。単独行者には「ココヘリ」の優位性を説き短期レンタルを勧める

南アルプス南部で立ち上げた「エコ登山」は、7月に入り大きく物事が動き出した。中旬、登山バス“毎日あるペン号”が聖岳、光岳への登山口・芝沢ゲートへ乗り入れ、地元タクシー8社も、4年振りに登山口への送迎者運行を再開（9月末まで）。道の駅かぐらの湯から早朝4:30発（予約制、メーター料金。問合せは遠山郷観光協会へ※注1）で易老渡まで乗り入れる。復路は午後1時に易老渡を出る。自家用車でくる登山者も含め芝沢ゲート駐車場は週末満車で活況を呈している。「エコ登山」の多方面への発信で登山者は4倍ほどの規模に。光小屋は人数制限ありで7~10月中旬まで全日満室という状況、テントも予約で？ 聖平小屋も素泊のみだが週末の予約は満杯とのこと。

7月23日の週末、芝沢ゲートの登山相談所を通過した登山者は聖岳へ48人、光岳へ55人、ラウンド縦走が23人で計126人を数えた。これは午前4時40分から7時半までの統計で、早朝に発つことの多い日帰りのトレラン・アスリート等の数はチェックできてはいない。ちなみに駐車数は50台満車の脇に12台が停まり計62台。駐車場以外の広場に23台、道路端に10台と総数95台であった。今後、マイカー抑制による混雑緩和や自然環境に配慮した登山につながる狙いがあるが、地元近在のタクシー会社は台数もドライバーも少なく、まだまだ二次交

通としての整備は十分でない。環境を考えると、国道152号沿線に大駐車場を確保し、そこを起点に定額観光タクシー制度が実現できれば、多くの問題点がクリアになる。

今のところ、登山口までの道路障害はない。エスケープとして国道から登山口へは歩いて入る森林軌道跡も使うことができ、歩きたい登山者は11・5km増しプラス3時間だが、遠山川沿いの大自然に包まれる気分と景色、それはそれでよいもの、特に秋の紅葉は素晴らしい。

もう一つ動いたこと。聖岳登山基地として多くの登山者に利用されていた便ヶ島の聖光小屋が再開した。この7月22日、7年振りに蘇った。先代オーナーの跡を継いだのは、地元木沢の仲山岳典さん。代々、山と関わりが深い家系で、祖父は1938~40年（昭13~15）に百間洞山の家を建設、父親も山案内人として活躍。彼は元



芝沢ゲートよりの駐車場と、相談所コンテナハウス。右下に見えるのが植生を守る「エコ登山」の“靴底を洗って入山、洗って下山”のパレット



光ファームで作り、光小屋へ荷上げた第1号野菜。登山者のボランティア歩荷で成り立つ

ら辛抱強く再開に備え、登山者を支える小屋としての使命と自らの夢に向かって今、順調に歩み出した。宿泊料は1泊2食付で1万円、素泊まり7500円、テント持ち込み1張5000円等（予約は小屋HP※注2）。

登 山相談所については、時報6月、7月号と続けて話題にしているので概略に留める。今のところ毎日あるペン号の到着日および週末と連休になる祝日を含む繁忙期の早朝に開

ける。早朝5〜7時まで駐在。まずは登山届の提出徹底をお願いしている。7月15日から駐在した一週間の記録を見ると、残念な事に登山届を持参されない登山者が23・5%もあった。インターネットで登山届を提出できる通称コンパスでの届け出も思ったより少なく2割程度、残りの多くは自作を含めたペーパーでの提出である。いずれにせよ対面でのチェックだから、相談所経由の登山者にはすべて

記載し提出してもらった。

昨年からの課題である遭難対策の一環として、私たち南信州山岳文化伝統の会は南信州観光公社を後ろ盾に、飯田市と遭対協、遠山観光協会の後押しをもらって、システム開発会社に作成を依頼し、地域限定（聖岳、光岳、池口岳）の届け出しシステムを完成させた。その専用サイトにつながるQRコード付きの登山者カードを相談所で配布し、認知してもらおうと共に、積極的な使用を推奨している。携帯でQRコードを読み取ると、あらかじめ設定された三山のルートを選べ、容易に届を提出できる。無事下山を確認できる「下山通知」の機能もあり、遭難の早期発見にもつなげられる。

さらに、南ア南部への登山者の傾向は単独行者が非常に多いということ。なんと最初の一週間の統計だけで26・3%もあった。厳密にいうと5時前に出立するアスリート系

をプラスすると推測3割を超す。単独登山者への対策については、登山届とともに遭難時に現場位置が特定できる位置情報発信端末「ココヘリ」の短期貸出を強く勧めている。特に単独の高齢者にはお守りとしてつけて行ってもらおうよう進言、浸透させたいと思っている。費用は2日間で1100円。今後、自らの会でドローン検索ができるよう専門チームの構築に取り掛かっている。

登山者へのサービス（食事・風呂・土産・観光など）は、土産のTシャツ、バッジ、手ぬぐいそれぞれ数種、相談所および聖光小屋、ネットで販売を始めた。順調な売れ行きでうれしい悲鳴。あとは、登山メシの完成を待つばかりである。ゼロカーボンの野菜荷上げボランティアも一般の登山者をお願いして、すでに2回行って、光小屋からの感謝の言葉が届いている。蛇足ながら清涼飲料水の自動販売機も置いた。



山登りのための やさしい気象講座

気象予報士・野尻英一

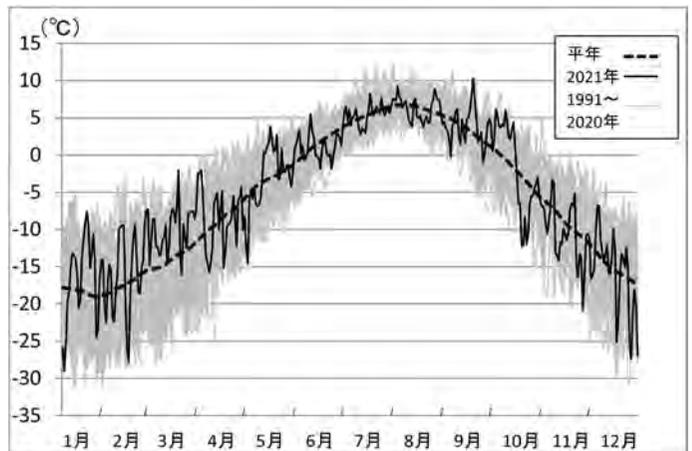
初めて行く山の 天気の平年値を調べる！

表1：上空の気温の平年値（1991年～2020年平均）

観測地点 高度	札幌		秋田		輪島			松江	鹿児島
	850hPa 約1500m	800hPa 約2000m	850hPa 約1500m	800hPa 約2000m	850hPa 約1500m	800hPa 約2000m	700hPa 約3000m	850hPa 約1500m	850hPa 約1500m
1月 1日	-12.1	-14.8	-8.7	-11.7	-6.1	-9.0	-14.5	-4.8	0.7
1月 16日	-13.2	-15.9	-9.7	-12.6	-7.2	-9.9	-15.2	-5.6	-0.1
2月 1日	-13.5	-16.2	-10.2	-13.1	-7.7	-10.5	-15.8	-5.4	-0.5
2月 16日	-12.5	-15.3	-9.4	-12.2	-6.9	-9.5	-14.2	-4.7	1.1
3月 1日	-11.1	-13.6	-7.8	-10.3	-5.2	-7.5	-12.4	-2.2	2.5
3月 16日	-8.8	-11.4	-6.2	-8.8	-3.4	-5.8	-10.7	-0.7	4.1
4月 1日	-5.4	-8.1	-3.2	-5.7	-0.5	-3.0	-8.2	2.0	6.0
4月 16日	-1.8	-4.4	0.6	-2.0	3.4	0.6	-5.0	4.6	8.5
5月 1日	2.4	-0.2	4.4	1.7	6.6	3.8	-2.0	7.9	10.7
5月 16日	5.1	2.5	6.8	4.2	8.9	6.2	0.4	10.7	12.6
6月 1日	8.1	5.5	9.4	6.7	10.9	8.1	2.3	12.4	14.0
6月 16日	9.9	7.6	11.3	9.0	12.9	10.3	4.7	14.1	15.8
7月 1日	12.3	10.0	13.5	11.1	15.0	12.4	7.1	16.0	17.4
7月 16日	13.7	11.5	15.0	12.8	16.5	14.0	8.7	18.0	18.5
8月 1日	15.3	13.1	16.8	14.4	18.2	15.5	9.9	19.2	18.9
8月 16日	14.3	12.2	16.4	14.0	17.7	15.2	9.7	18.7	18.9
9月 1日	12.7	10.4	14.9	12.4	16.0	13.4	8.0	16.6	17.9
9月 16日	9.4	7.1	12.1	9.7	13.4	10.9	6.0	13.9	16.6
10月 1日	6.2	3.8	8.9	6.5	10.3	8.0	3.2	11.5	14.6
10月 16日	2.5	0.1	5.4	3.2	7.3	5.1	0.4	8.6	12.6
11月 1日	-0.9	-3.1	2.1	-0.2	4.2	1.8	-3.0	5.6	9.8
11月 16日	-4.9	-7.3	-1.3	-3.8	1.2	-1.4	-6.2	3.1	7.5
12月 1日	-8.5	-10.9	-4.3	-6.8	-1.4	-4.0	-9.1	-0.3	4.9
12月 16日	-11.1	-13.8	-7.2	-10.1	-4.4	-7.2	-12.5	-3.2	1.9

※観測時刻9時の値

図2：富士山の気温の平年値、2021年の観測値



先月は北海道と本州以南の気象の違いを取り上げた。登山はどこかに出かけるといふ点では旅行である。慣れたホームグラウンドなら別だが、たいがい土地勘の少ない場所に行くわけだ。そこでガイドブックや登山記録、地図、巡回図などで事前情報収集をするのだが、気象条件の調査はいかがだろうか。例えば目的地の気温に合わせた服装や防寒装備を整える必要があるが、そのためには目的地の気温を知る

必要がある。そんなときに有効なのが「平年値」の利用だ。

過去30年の平均値

平年値は、天気予報でよく「平年より〇℃低い」など耳にするが、その場所そのときの平均的な気象条件を表すもので、具体的には過去30年の平均値だ。10年ごとに再計算されるが、最近では2021年に改訂された。山の気候を調べるには、昔

は伊吹山や剣山などにあつた山岳測候所の平年値が参考になったが、現在はなくなっているので高層気象観測の平年値を参考にするのが良いだろう。平年値は気象庁のホームページから調べることができるが、表1に数地点のデータをピックアップしてみた。例えば10月中頃だと東北の標高1500m位の山なら5℃前後（秋田を参照）、日本アルプスなら0℃程度（輪島を参照）と見当がつく。西日本の山なら松

江、九州なら福岡や鹿児島等の平年値が参考になるだろう。

さて、平年値はあくまで平均的な数値なので、実際の気温はそれより高い日もあれば低い日もある。実際の気温と平年値がどのくらい異なるのか図2の富士山のデータから考えてみよう。黒の太点線が平年値、その計算の基になった1991年から2020年の30年分の観測値を薄い線で表した。つまり、薄い

表3：上空の気温の出現日数

9時の高層観測データによる、札幌と輪島における気温帯ごとの出現日数。

①札幌と輪島の高層観測値一夏～初秋

	札幌 上空約2000m (大雪・十勝連峰、日高山脈などに相当)		輪島 上空約3000m (北アルプスなどに相当)	
	7/16～ 8/20	8/21～ 9/25	7/16～ 8/20	8/21～ 9/25
	15℃～	56	13	0
10～15℃	99	57	112	40
5～10℃	23	81	68	106
0～5℃	2	26	0	28
-5～0℃	0	3	0	0
データなし	—	—	—	6

(2017～2021年の5年間の合計)

②輪島の高層観測値一秋

	輪島 上空約3000m (北アルプスなどに相当)		輪島 上空約2000m (関東、甲信越、北陸の中級山岳に相当)	
	10月	11月	10月	11月
	15℃～	0	0	1
10～15℃	1	0	23	19
5～10℃	35	15	60	46
0～5℃	56	60	52	49
-5～0℃	50	45	18	28
-10～-5℃	11	23	1	5
-15～-10℃	2	4	0	0
データなし	—	3	—	3

(2017～2021年の5年間の合計)

③輪島の高層観測値一厳冬期

	輪島	
	12/16-1/31	
	高度 約3000m	約2000m
0～5℃	0	3
0～-5℃	5	46
-5～-10℃	51	76
-10～-15℃	61	81
-15～-20℃	69	19
-20～-25℃	37	0
-25～-30℃	2	0
データなし	10	10

2017/18季～2021/22季(5年間の合計)

表3でさらに詳しくみよう。表3

盛夏期でも5℃を下回る日が

ずれ幅を示している。夏はずれ幅が小さく±5℃くらいだが、冬には大きくなり最大±10～15℃にもなる。春と秋はその中間だが、10月でも氷点下20℃近くまで下がった日があったこともわかる。2021年の観測データを黒実線で書き足したが、薄線ゾーンの上下限ぎりぎりまで上がったりがったり下がったりしており、実際の日々の気温の変動は大きいこともわかる。

は過去5年間の気温を5℃間隔で区分けしてそれぞれの日数を記入したもので、気温のばらつき方がわかりやすい。表①で北海道と日本アルプスの夏～初秋をみると、北海道は日本アルプスに比べ気温が大きく下がることもあり、盛夏期でも5℃を下回る日が5年間で2日あった。2日という稀な例外ケースのようだが、表は毎日一回9時の観測データのみで作表しているのだから実際の気温はもっと多いとみられる方がよい。先月紹介した私の大雪十勝縦走時の低温も、そういう日に遭遇したわけだ。表②によると秋の関

東甲信北陸の中級山岳はマイナス10℃を下回ることがあるし、表③をみると厳冬期の北アルプスならマイナス20℃を下回ることがよくあり、極端な場合はマイナス25℃以下に下がることもあることもわかる。そんな極端な低温は5年間に数日で確率は低いが、実際の山行ではこうした低温まで想定するべきなのだろうか。私は必ずしもそうではないと思う。現在はこうした強い寒気はほぼ予報可能なので、日帰りや一泊程度の短期の山行なら出発前に気象情報を聞いて装備を強化すれば良いし、山行中止の判断もできる。しかし、長期の山行や、関東や京阪神から北海道の山に行

く等でアプローチに日数を要する場合には、予報の不確実性も考え、こうした稀なケースも念頭におくべきだろう。山行中は手持装備や体力、力量での程度まで耐えられるか想定し、気象情報をしっかり取って、強い寒気が襲来する前の動きが取れる間にエスケープする判断も大切になる。そのためにも平年値で平均的な状態を知るとともに、極端な場合どの程度まで気温が下がり得るのかを過去データなどがら知っておき、具体的なイメージしておくことが大事だ。もちろん、そんな極端な場合に山や自分自身でうなっているか想像する力も重要である。

気象庁のホームページで

平年や過去の観測データを調べる手順

気象庁 HP : <https://www.jma.go.jp/>

「各種データ・資料」のタブから「気象観測データ」「過去の気象データ検索」のリンクをクリックする。高層気象観測だけでなく各地のアメダスのデータもあるので、いろいろ参考にしてほしい。



○ 労山基金運営委員会

事故原因の大半を占める

転倒・滑落事故

今月に限ったことではないが申請案件の事故原因としては転倒・滑落が圧倒的に多い。ちなみに5月の交付申請件数15件のうち12件が転倒・滑落による事故である。もちろん一口に転倒・滑落といっても状況はいろいろあり、困難な場所（雪と氷に覆われた沢の詰めとか）での事故もあれば、普通の登山道のような安全と思われる場所での事故もある。特に高齢者が多いとされる後者については増加傾向にある。

リーダー部長や山行管理者など事故防止対策の企画実行を推進する立場の方におかれては、転倒・滑落事故防止対策を重点課題として種々の取り組み・検討をされていると思う。

私たち基金管理運営委員は事故防止対策を論ずる立場にはないが、交付申請案件を通じて多くの直接的な事故情報に接している。そこで感じ気付いたことを発信していくことも意味があるのではな

いかと思っている。

例えば直近では一般登山ルートの下山の難所を切り抜けて安全な場所に出た直後に事故を起こした案件から「緊張感の継続維持」がいかにかに難しいものであるかを感じている。関係の方々に参加になるかどうかはわからないが、今後もしこのような発信を続けていきたい。

（鶴田秀雄／労山基金運営委員）

○ 組織部

全登研集會に参加しよう！

組織部会は6月部会より全国登山研究集會実行委員会と部会を兼ねて実施している。だから、議題も全登研集會に関するものが主になっている。10月に開催される全国登山研究集會の開催要綱概要について、簡単に記す。

【テーマ】新しい生活様式に対応した登山文化と登山運動を継承し発展させよう。【場所】東京ホテルコンチネンタル【期日】10月23日（土）～24日（日）【参加費】8000円【時間】23日12時～30分 受付開始 13時00分 浦添嘉徳会長挨拶 13時10分 基調報告川嶋高志

理事長 13時30分 記念講演伊藤圭氏

15時30分 分科会開始 1山小屋の

諸問題、2登山道と遭難対策、3

岩場のマナーとアクセス、4魅惑

のトレイルその楽しみ方 翌24日

8時30分 分科会開始 10時00分 終了

その後オプショナル。【申し込み

締切り】10月12日（水）

会場の都合で参加者1000名に

達し次第締切る。レポートを募集

している。締切りは9月30日（金）

迄。詳細は開催要綱をご覧ください。

多くの登山会員、登山者の奮って

の参加をお待ちしています。

（久保典子／組織部長）

○ 山筋ゴーゴー体操推進委員会

山筋ゴーゴー体操講習会in福井

7月2日（土）に山筋ゴーゴー

体操講習会が開かれた。

コロナ禍で長らく山に行きにく

い状況が続いた影響で、会員の筋

力低下を考慮し怪我や遭難の予防

にと福井県連が開催した。

早い梅雨明けの猛暑の中、エア

コンがあるとはいえ、換気をしな

がらマスクをつけてのトレニー

ングは大変だったことと思う。

最初はぎこちなかった動きも最後は見違えるようにきれいなフォームになり、参加者の皆さんのニコニコ顔で終了となった。これからもこの山筋体操を持続して下さることを期待している。

講習会後は福井県連の方々懇談の時間を持ち、山の話や県連活動の紹介をしていただいた。

福井県連では県連でできる活動を本当に一生懸命に取り組んでおられ、だからこそ出てくる、今後のさらなる発展への道筋を真剣に模索されていた。

全国連盟からは連盟の数々の講習会、集会活動を紹介すると、「こうもできるのですね、ああもできるんですね、是非利用していきたいね」と話がどんどん弾み、全国連盟の活動も知っていただき、懇談は終わった。

福井県連初めての講集会！は、大成功で無事に終了した。

(宇田川道恵／山筋ゴーゴー体操推進委員)

○遭難対策部

事故が増加しヘリ搬出も5件

6月2日から7月6日までに届

いた事故一報は39件41名。

転倒が17名(無雪期15名、積雪期1名、山スキー1名)。転落が3名(無雪期3名)。滑落5名(積雪期1名、無雪期1名、登攀1名、沢登り2名)。体勢4名(無雪期3名、人工壁1名)。落雪が1名(積雪期1名)。虫が8名(無雪期6名、訓練2名)。その他3名。登山形態では、無雪期30名、積雪期3名、山スキー1名、登攀2名、沢登り2名、人工壁1名、訓練2名。骨折13名、損傷6名、裂傷6名、打撲3名、その他13名。男性20名、女性21名。

所属連盟は、京都・兵庫各5名。大阪4名。道央・東京・岡山が各3名。群馬・埼玉・神奈川・愛知が2名。道東・宮城・茨城・千葉・石川・長野・岐阜・滋賀・和歌山・長崎が各1名。年齢は、30代4名、40代6名、50代8名、60代14名、70代8名、80代1名。

事故一報からは、下山中の転倒事故が41件中17件発生。転倒事故の報告は、増加の傾向が続いている。登攀・沢登り・積雪期の落雪・虫による事故を除くとほぼ下

山中に発生。60歳以上の割合が高く(70歳も1名含む)注意しても足腰の衰えにより、滑る・躓く・バランスを崩す事が多くなっている。今回も下山完了寸前の登山口で木橋より転落する事故発生。最後まで、気を抜かない対応が必要です。今回は、滑落・転落・落雪でヘリ搬出が5件発生した。一つ間違うと重大事故に繋がる。自身の力量・体力・体調を総合的に見極めて慎重に行動してほしい。

今年も暑い日が続き熱中症が心配される。夏の山登りは、炎天下の高温で激しい運動の連続する環境での行動が多く、上手にリスクを捉えながら、山に出かけよう。熱中症は、予測・予防・早期発見・早期対応が大切だと言われている。意識がはっきりしているが、手足のしびれや、めまい・立ち眩み、筋肉のこむら返りがあるときは軽症の熱中症と考え現場で早めに対応し経過観察を行おう。

(石川昌／全国遭難対策部長)

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。

2022年6月2日から2022年7月6日までに届いた事故一報

事故発生日	地方連盟	年齢	性別	山名	山行形態	事故原因	傷病名	
1	5.22	愛知	47	女	前穂高岳	積雪期 滑落	下山中、ダイレクトルンゼで足を滑らせ300m滑落した。翌日、ヘリで搬送。	左第11肋骨骨折他
2	5.4	埼玉	74	男	爺が岳	積雪期 転倒	下山中、倒木の上で足を滑らせ足つけねを痛めた。	右足の付け根損傷
3	5.28	兵庫	49	女	岩原山	無雪期 転落	下山中、ロープ地点へ移動中足元が崩れ宙ぶり状態になった。	第8・10肋骨骨折
4	5.29	兵庫	77	女	金北山	無雪期 転倒	頂上付近で座っていたがバランスを崩し後ろへ倒れた。	頭頂部裂傷
5	5.29	岡山	69	女	高岳	無雪期 転倒	下山中、木の根に躓き転倒し足首を捻った。	足首骨折
6	5.18	大阪	38	男	棧敷が岳	無雪期 体勢	ぬかるみに左足を入れ、その際足首を痛めた。	左足首捻挫
7	5.22	神奈川	37	女	三浦アルプス	無雪期 転倒	下山中、岩に足を滑らせ転倒した。	足首骨折
8	6.4	岐阜	51	女	小川山	登攀 滑落	屋根岩2峰で登攀中、滑落し県警ヘリで搬送。	第5胸椎骨折
9	6.7	道東	54	男	剣山	無雪期 転倒	下山中、滑って転倒した。	右膝の打撲
10	6.4	大阪	63	女	那岐山	無雪期 転倒	登山道の小石で滑ってストックで支えられず、手をついて転倒した。	右手首骨折
11	5.23	京都	69	男	行者ヶ森	無雪期 虫	下山二日後、左太ももをマダニに咬まれていたことが判明した。	マダニ咬傷
12	5.13	東京	48	男	室内ジム	人工壁 体勢	前傾壁をクライミング中に左手中指を負傷した。	左手中指離断炎
13	5.28	兵庫	69	男	岩原山	無雪期 虫	ロープワーク訓練で後続者を長時間待っていた為、全身マダニに咬まれた。	マダニ咬傷
14	1.20	群馬	62	女	宝台樹	山スキー 転倒	山スキーの訓練中に転倒した。	脳内（左視床）出血
15	5.28	群馬	65	女	尾瀬ヶ原	無雪期 転倒	木道の段差に躓き、前に転倒した。	左手裂傷
16	5.22	京都	88	男	白髪岳	無雪期 転倒	階段状の登山道を登っている時、靴が石に引っ掛かり転倒した。	右足上腿挫傷
17	5.31	岡山	70	男	高梁自然公園	無雪期 虫	下山後、下腹部をマダニに咬まれていたことが判明した。	マダニ咬傷
18	6.4	埼玉	73	男	十文字峠	無雪期 転落	足がふらつきバランスを崩し5m程転落。翌日歩行困難、ヘリ搬出。	顔面裂傷
19	6.11	石川	45	女	雑穀谷	訓練 虫	虫に咬まれたのち、腫れとかゆみがひどくなったので皮膚科受診。	なし
20	6.8	道央	72	女	レクの森	無雪期 その他	散策道を塞いでいた太い倒木に頭をぶつけた。	右側頭部裂傷
21	6.9	宮城	69	男	小朝日岳	無雪期 転落	下山完了寸前、登山口から数mの木橋でスリップ、3m転落した。	右膝裂傷
22	6.11	兵庫	63	女	六甲山	無雪期 虫	船坂峠付近でチャドクガにさされ皮膚炎を発症した。	チャドクガ皮膚炎
23	6.11	兵庫	58	男	六甲山	無雪期 転倒	下りの段差の大きいところで足が滑って足首を捻った。	右足関節外側骨折
24	6.18	道央	53	女	手稲山	沢登り 滑落	ヘツリ地帯で足を滑らせ3m滑落し、流木に強打し捻った。	大腿骨外側骨挫傷
25	6.12	京都	78	女	愛宕山	無雪期 虫	下山後の翌朝、右腕をマダニに咬まれていたことが判明した。	マダニ咬傷
26	6.12	京都	67	男	愛宕山	無雪期 体勢	下山中、足首を捻ったが痛みも無く下山後腫れが判明した。	右足首靭帯損傷
27	6.19	滋賀	48	男	百丈岩	無雪期 転倒	歩荷トレーニングで石に滑って足を捻った。	右足首靭帯骨折
28	6.1	東京	72	男	棒ノ折山	無雪期 体勢	木の根っこで足を取られ右足首を捻った。	右足首靭帯損傷
29	6.12	京都	70	男	大文字山	訓練 虫	場所は不明、チャドクガにさされ右腕から皮膚炎を発症した。	チャドクガ皮膚炎
30	6.19	東京	46	男	大菩薩峠	沢登り 滑落	小菅川本谷で高巻き中に、80cm位岩壁をずり落ちて足首を捻った。	右足首靭帯損傷
31	6.10	岡山	61	女	久住山	無雪期 転倒	下山中、石に躓き転倒した。	左手薬指と肋骨骨折
32	6.21	茨城	67	女	燧ヶ岳	無雪期 滑落	下山中、雪渓のトラバース中バランスを崩して80m位滑落。ヘリ救助。	臀部打撲
33	6.26	大阪	68	男	壱聖岩	登攀 その他	他のパーティーのトップロープ4mほどの不意落ちで、頭部に衝突した。	むち打ち症
34	6.24	千葉	69	男	守門岳	無雪期 転倒	下山中、窪みに足を取られ転倒した。	右足首靭帯損傷
35	6.16	長野	38	男	茶白山	無雪期 転倒	下山中、下山口まであと10分程度で濡れた根っこで転倒した。	右手小指骨折
36	6.8	愛知	67	男	弓張山地	無雪期 転倒	転倒（原因不明）し顔面を強打した。	顔面打撲と裂傷
37	6.18	神奈川	36	女	剣岳	積雪期 落雪	下山中、平蔵谷で60cm四方の雪塊が直撃し30m程滑落した。ヘリ搬出。	右両側前腕開放骨折
38	6.16	長崎	54	女	経ヶ岳	無雪期 転倒	下山中、ガレ場で石に躓き転倒し胸を強打した。	胸骨骨折
39	7.2	大阪	59	女	大杉谷	無雪期 転倒	下山中、河原の岩でスリップし転倒した。	左小指第二関節脱臼
40	7.2	和歌山	53	女	稲村ヶ岳	無雪期 その他	下山後、足の浮腫みで痛みがひどく受診した。	右膝靭帯損傷
41	7.3	道央	58	女	目国内岳	無雪期 虫	多数の虫により大腿部と上腕の80か所近く刺された。	虫刺されによる炎症

事故一報の受領順で掲載

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	0	2	3	2	7	5	1	0	20
女性	0	2	3	6	7	3	0	0	21
合計	0	4	6	8	14	8	1	0	41

	墜落	転落	滑落	転倒	体勢	虫	落石	その他	合計
男性	0	2	1	8	4	4	0	1	20
女性	0	1	4	9	0	4	1	2	21
合計	0	3	5	17	4	8	1	3	41

	無雪期	積雪期	山スキー	沢登り	登攀	氷瀑	人工壁	訓練	合計
男性	15	1	0	1	1	0	1	1	20
女性	15	2	1	1	1	0	0	1	21
合計	30	3	1	2	2	0	1	2	41

	骨折	脱臼	挫傷	捻挫	裂傷	打撲	損傷	その他	合計
男性	4	0	0	1	3	2	5	5	20
女性	9	1	1	0	3	1	1	5	21
合計	13	1	1	1	6	3	6	10	41

- 2～3日 全国遭難対策担当者会議（宮城県仙台市・エポールみやぎ）川嶋理事長、石川・白井副理事長、赤間・大和田・三瓶・早川・吉永理事が参加。
- 5日 労山カレンダー選考委員会
- 同日 第3回コンパス専門部会
- 同日 自然保護委員会
- 6日 遭難対策部会
- 9～10日 第25回全国自然保護講座（滋賀県立比良山岳センター）浦添会長、竹本・平尾・山本理事が参加。
- 11日 共済の今日と未来を考える懇話会（全国保険医団体連合会事務所）川嶋理事長が出席。
- 14日 組織部会・全国登山研究集会第2回実行委員会
- 15日 全国山岳遭難対策協議会（東京・文部科学省）川嶋理事長・石川・白井副理事長が参加
- 19日 三役会議
- 20日 山筋ゴーゴー体操推進委員会
- 同日 労山基金オンライン説明会
- 21日 登山時報編集委員会
- 26日 労山基金運営委員会
- 28日 第5回理事会
- 29日 第4回コンパス専門部会

第5回理事会、討議事項

- ① 全国登山研究集会について
参加者は100名とし、全て宿泊参加とする。二日目は全体会で分科会の報告をする。オプションの地図読みとクライミングの講習は実施する。
- ② 来年の労山カレンダーについて
選考が終了し選出者が確定。経費は少し値上がりするが、今年と同じ形で発行し、同じ価格で販売する。



鎌倉山（宮城県仙台市）の岩場を登る北海道の遭対部長



愛媛県面河溪、鉄砲石川を辿る

2022全日本山岳写真展

未来に残そう美しい山河



落陽／ Berndt Bohman

会期 = 9月7日(水) ~ 9月11日(月)

開場 = 10:00 ~ 19:00

但し、最終日は10:00 ~ 17:00

会場 = 東京芸術劇場・5階ギャラリー1・2

[東京・池袋駅西口]

主催 = 全日本山岳写真協会・2021全日本山岳写真展実行委員会

TEL 03-3634-8030

全日本山岳写真協会は、山岳写真を通して会員相互の親睦と写真表現技術の向上を目的に活動しており、プロ・アマチュアあわせて約300名で構成されている。同展には、本誌で表紙写真と「四季の山岳撮影紀行」を連載中の宮本宏明さんも出展する。

FROM EDITOR

尾瀬のシカによる食害がひどい。環境省HPでは「90年代半ばに生息確認以来、湿原をはじめ植生の攪乱が目立つようになり、本来の生態系に回復不可能な影響が及び可能性が危惧されて」いるという。最近訪れた友人は「水芭蕉やニッコウキスゲがシカに殆ど食べ尽くされ」「環境省の対策も知れたもの」と。尾瀬が尾瀬でなくなる一大事！ (鈴木)

数年前からの健診でデータが良くなかったが、ついに慢性腎臓病中等症の確定診断。放置すると最悪、人工透析患者となる。1か月くらい前から塩分摂取を極端に控えた時たまふらつくようになる。腎臓病は治療しても治癒しない、良くて現状維持。あと10年、未読の本を読み安らかな人生としたい。(田上)

新型コロナの感染爆発がとまらない。連日過去最多。ついに1日当たり20万人を超えた。信濃毎日新聞によれば、北アルプス燕山荘と八ヶ岳黒百合ヒュッテのスタッフが感染していることがわかり、休業に追い込まれたようだ。山も埒外ではない。(塩田)

スフィンクス

No.185

村松 孝一



登山時報

©禁無断転載

9月号 No.571 2022年8月15日発行

編集長 今野善伸

副編集長 橋口晴彦

編集 酒井正裕、田上千俊、濱崎優子(進行)

校正 塩田善次郎、鈴木幹雄

DTP・デザイン 来住真太

発行人 川嶋高志

編集人 今野善伸

発行 日本勤労者山岳連盟

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24

TEL 03-3260-6331 メール jwaf@jwaf.jp

印刷 有限会社 カウス



Hiraō Shigekazu

平尾繁和さん

1952年京都市生まれ。静岡の大学では林学を専攻。現在は妻と二人暮らし。退職後にそなえ森林インストラクターの資格をとる。2017年仕事をリタイア後、日本自然保護協会の自然観察指導員となり、自然観察会のスタッフなどの活動を始めている。趣味は風景や植物の写真撮影に俳句。京都府連盟でハイキング委員を十数年つとめ、その後自然保護委員、常任理事となり現在自然保護委員長。今期から全国連盟理事に就任。京都田辺山友会所属。

ブナ林の東北の山々に憧れ 自然環境を守り、 後世へつなぐ活動を

■登山を始めたきっかけ

30代後半に職場で誘われ、家族ぐるみで鍋や網をもって比良山や霊仙山、白山などで楽しい登山を経験した。そのうちヒヤリハットもあり、連れてもらう登山に安全面で不安を覚え、山歩きの基本を学ばなければと思い、新聞で見た府連盟のハイキング講座を受講し、修了後に紹介された田辺山友会に入会した。会の例に参加するうちに、当時の会長から府連盟の初級登山学校をすすめられ受講した。登山学校では安全登山の思想や登山の基礎知識・技術を学び、山の仲間を知り、無事修了できた。ところが、さあこれからということも参加できず、十数年のブランクが生じた。会と労山は継続し、その間は単独で低山登りをした。やっとリタイア前から会の例会に復帰し、役員等を経て今に至る。

■山の経歴と印象深い山

職場の仲間と家族ぐるみで登った

初のアルプス燕岳。初日は体調がよくなく、退職した先輩が働いていた燕山荘で子どもと留守番だったが、仲間から誕生日を祝ってもらったのが思い出。初級登山学校の修了山行で西穂高岳と奥穂高岳を縦走中、霧の中でジャンダルムを下って馬の背手前で雷に出会い、講師のツエルト

で雷をやりすごした体験は忘れられない。最近では2019年8月、若い仲間と3人でテントを担いで2泊3日でウルトラダイトレ縦走(ダイトレ終点岬町)をしたこと。我ながら炎暑の中の低山縦走をよくやるなど思ったが、楽しい思い出になった。

■今まで取り組んできたこと

2017年から府連盟常任理事(ハイキング委員、自然保護委員)、2018年から自然保護委員長。自然保護委員会では仲間とクリーンハイク50年のまとめや八丁平の視察、自然観察会にとりくむ。毎年自然保護セミナーでは、2018年リニ

ア新幹線問題、京都の山と自然環境を壊す北陸新幹線京都延伸問題が起

こる中、2019年芦生の森の自然、2020・21年北陸新幹線京都延伸問題をテーマに学んできた。2020年府連盟総会から北陸新幹線延伸の見直しを求める署名活動を始め、これまで2回大阪市にある鉄道運輸機構に署名を届けた。引き続き2022年1月から駅頭や登山口等での署名活動に取り組んでいる。

■今後、取り組んでいきたいこと

リニア新幹線、北陸新幹線延伸や大型風力発電計画等大型開発から山と自然環境を守り後世に引き継げるよう全国の仲間とともに微力を尽したいと思う。

また、体力の残るここ3〜5年に行きそびれていた山をめざしたい。ブナとブナ林が大好きで北限のブナや白神山地、飯豊、朝日連峰など東北の山、その他各地の自然豊かな山へぜひ行ってみたいと思っている。よい情報があれば教えてほしい。

地図読み

迷入

監修・村越真
宮内佐季子
小泉成行

Lesson 159

整備された登山道でのナビゲーション

【問題】

下の文は、斑尾山の三角点（地図の△）から万坂峠（◎）まで地図にある登山道を下ったときの様子を書いたものです。空欄に当てはまる言葉をかっこ内の指定に従って入れてください。また、文内のa～fの場所を地図で示してください。地図は地理院地図を縮尺1:20000にしたもので、紫色の直線は磁北線です。

斑尾山の三角点からア（八方位）の方向へ歩き始めた。

緩やかな短い下り、登りの後、道の分岐aであり、イ（地形を表す言葉）の分岐でもあるaに到着。ウ（八方位）の方向へ進んだ。

さらに今までより少し長い距離を進むと、別の道に合流した。この場所での写真がエ（①～⑥）、場所はb。

そこは、地図に描いてあるよりリフトとの距離が近いように感じたが、尾根が分岐していて、右の尾根がオ（八方位）へのびていることも確認できたので、リフトの違和感は気にせず進む。

少し進んで尾根の下り傾斜が強くなると、前方の道が見えてきた。その景色がカ（①～⑥）。

カで前方に見えていた区間を過ぎた辺りで、前方に少し高い部分が見えた。その景色がキ（①～⑥）。

このようにイが少し高くなっているところはイの分岐になっていることが多い。この場所も例外ではなく、地図上のcだった。

cの先は霧で遠くまでは見通せなかったが、一本道がク（八方位）の方向へ下っているので迷わず進んだ。

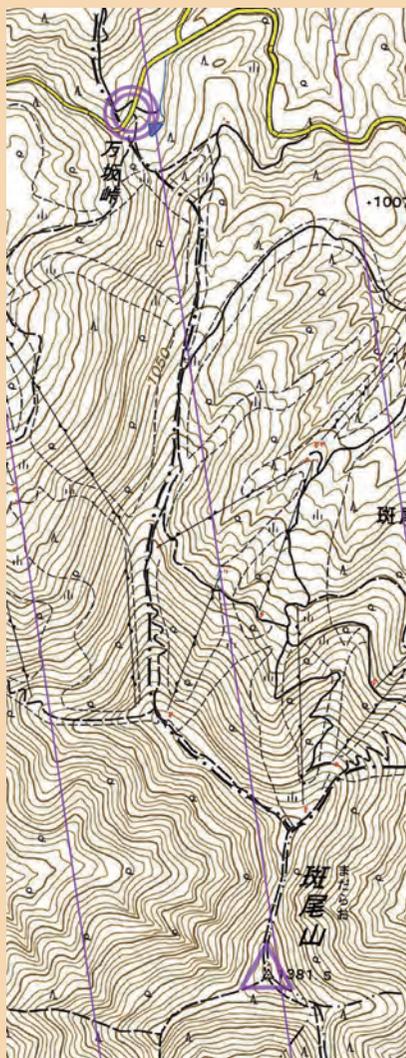
しばらく進むと、不明瞭で緩やかなイ上でゲレンデが二手に分かれた。左のゲレンデに行く道はイから少しずつ左へ逸れていく。そちらを進んだ。そのゲレンデの分岐を少し手前から撮影したのがケ（①～⑥）。

ほんの少し進むと、左の急斜面を下るゲレンデの上部を通過。その区間を手前から撮影したのがコ（①～⑥）。地図上のd。

さらに下ると、道がゲレンデから逸れて右の林の中へ。その場所が地図上のe。そこで左下を見ると、ゲレンデの下を横切っている道が見える。その景色がサ（①～⑥）。下に見えている道はf。

f付近で道の左右の地形は、シ（右もしくは左）が高くてス（右もしくは左）が低くなっている。

fの先で道が傾斜の緩やかな広いイに沿って右に曲がり、道路に出た。





①



②



③



④



⑤



⑥



【解説】
 八方位とは、北／北東／東／南東／南／南西／西／北西で方向を表すこと。
 地図に **g** で示した記号は「荒地」の記号で、草や灌木が生えている、林ではない場所に使われる。**h** は「特定地区界」の記号で、ゴルフ場、自衛隊の演習場などに沿って引かれる。**i** は「索道」の記号で、ロープウェイ、ゴンドラ、リフトなどがこの記号で表される。この3つの記号がこのようにたくさん描かれている山は、たいていスキー場だ。荒地がゲレンデ、特定地区界はゲレンデと林の境、索道はリフトやゴンドラ

ラである。
 斑尾山から万坂峠へ下る道はナビゲーションに使える目印が多く、人によって使う目印も変わるだろう。今回のナビゲーション例は、数あるパターンの中のひとつである。答えを文中に当てはめ、地図と写真も照らし合わせて、もう一度読み直してほしい。
b 周辺で道とリフトの距離は地図では50mほど離れているが、写真からも分かる通り、実際にはすぐ近くにある。なぜこのようになっているのか確かなことは分からないが、リフトが付け替えられたのが地図に反映されていないと考える



のが自然だろう。このよう
 なことは珍しくない。
 ⑤の奥の方に傾斜の緩い部分
 が写っている。これが **j**。
 さらにそこが **j** だと分
 かって写真を見ると、尾根
 が右の方へ向きを変えている
 ことも分かるだろう。

答え ア：北 イ：尾根 ウ：北西 エ：⑥ オ：北 カ：⑤ キ：② ク：北 ケ：④ コ：① サ：③ シ：左 ス：右

吹上温泉 白銀荘

白銀荘は、十勝岳連峰の標高1017mにある。素泊まりで、露天風呂もある巨大な宿泊施設だ。十勝岳連峰のベースキャンプとして、多くの登山客を招いている。白銀荘から徒歩5分の

ところに、ドラマ「北の国から」のロケで話題となった露天風呂もある。

吹上温泉からは、十勝岳連峰の展望台の三段山や十勝岳避難小屋を経由して十勝岳、健脚者はさらに美瑛岳を登って吹上温泉まで日帰りで周回することもできる。



十勝岳スカイライン

十勝岳スカイライン

十勝岳スカイラインは、凌雲閣から上富良野に向かう吹上上富良野線から吹上温泉へ分岐した道道966号十勝岳温泉美瑛線の通称だ。吹上温泉から望岳台までは、標高1000mラインをドライブでき、まるで

高山の中を歩いているような錯覚に陥らせる。一見の価値があるおすすめスポットだ。

ルート図



吹上温泉



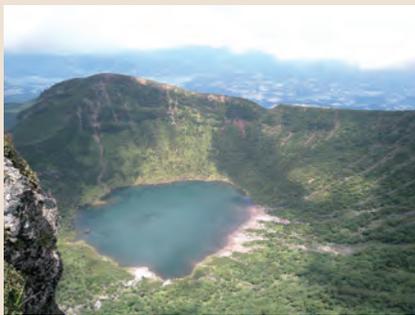
吹上露天の湯

雲上の湯と山

温泉基点の山々



ミヤマキリシマと大浪の池



韓国火口



韓国 白鳥山から

霧島温泉と韓国岳

からくに

大村真由美 鹿児島勤労者山岳会／鹿児島

小学校の修学旅行で、安くてちよいどいいと買った、赤松せんべい。南国指宿に育った私は、霧島はとても遠い所、気候の違う所と思っていた。ここ何年か霧島の山々を歩くようになり、あのおせんべいは、えびの高原に自生する赤松の優美な姿をモチーフにしたお菓子とわかった。そんな名物にもなる赤松が生い茂るえびの高原、韓国岳登山はここからスタートする。鹿児島県本土最高峰1700mといっても登山口で既に1200m、初心者でも比較的登りやすい山で、鹿児島の登山者は数多く登っていることだろう。登り始めて三合目の硫黄山火口展望所までくると、今の時期はセミの鳴き声と眼下で活動中の硫黄山の飛行場の音のように鳴り響くシュワシュワシューという噴気

雲上の湯と山

温泉基点の山々



韓国の樹氷

音の不思議なコラボが聞こえる。登山道は整備されているが、ほとんどの道で大小の石がゴロゴロとしており、注意しながら登る。九合目ぐらいから山頂までは草木がなくなり、ほぼ岩だけの山になる。このことから空国が韓国岳という名前になったとの説がある。山頂に着くと大きな爆裂火口に足がすくむ。山頂からは2011年に大噴火した新燃岳の今もモクモクとあがる噴煙越しに秀麗な高千穂の峰がどんと構えているのを眺める。綺麗

歴史があり、その間に植生も変わってきているらしい。何ということだろう。遠いと思っていた所も、地球規模で見直すと鹿兒島の中にこんなな活動の盛んな山が集まり、繋がっている。県内の随所に温泉があるのも納得できる。この霧島の山をあちこち縦走したいと思うが、

まだ立入禁止区域も多い。活動中の火山を眺められるのは貴重なことで、長年の研究から規制区域を調査し、安全が守られていることがありがたいと思う。春は、標高の高い活火山にあるというピンクのミヤマキリシマが綺麗に咲き誇り、夏は涼しく朝駆け登山、秋は紅葉、冬は鹿兒島でも樹氷が楽しめる。四季折々何度でも登りたい山で、赤松の森に帰ってきてホットしながら、ジオパークの素晴らしさで胸一杯になる。下山後のお楽しみは何といっても温泉、韓国岳の近辺には幾つかの温泉が在るが、えびの高原から車で12分ほど下った所にあるのが新湯温泉。今も火山活動を続ける新燃岳の麓、標高920mの山中に湧いている。源泉掛け流しのこの温泉は皮膚疾



民営国民宿舎霧島新燃荘 新湯温泉
【泉質】単純硫黄泉（硫化水素型）
鹿兒島県霧島市牧園町高千穂 3968
電話 0995-78-2255
立寄り入浴 大人 600円



患関連に効能があり、明治から多くの人が訪れたと聞く。硫黄成分たっぷりな真つ白な湯は硫化水素型だ。そのため入浴時間が30分と制限されているが、浸かるだけで疲れがとれ、肌もすべすべになり、とにかく気持ちがいい。内湯と混浴の露天風呂があり癒される。

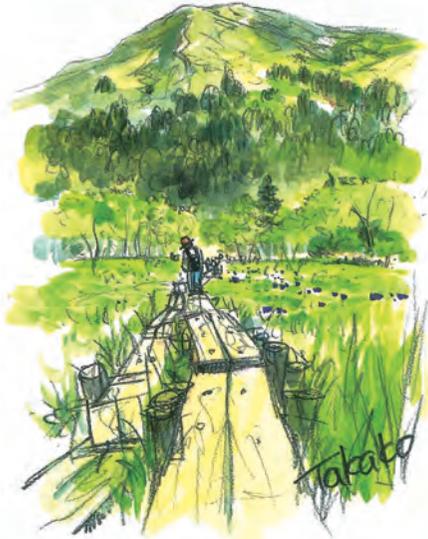
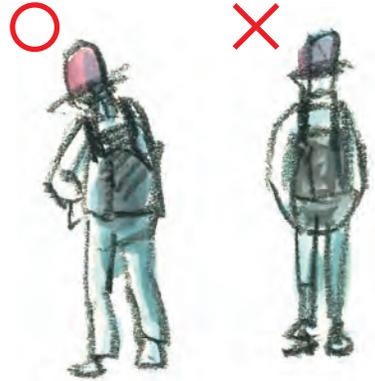
えびの高原駐車場 > (40分) > 三合目硫黄山火口展望所 > (30分) > 五合目 新燃の韓国岳登山道休憩所が建つ > (50分) > 山頂 > (90分) > えびの高原駐車場



ちょっとでも角度を取ろう

●どうしても絵を描くときすべての物は曲がらないでまっすぐ描いてしまう事が多いです。

●地平線だけは曲げてはいけません。でも木道なども少しでも曲げると良い表現になります。



至仏山を望む木道

あらかると

白花の草原

石井光造



夏が終わり秋を感じる山の花は意外に多い。赤い花が秋を告げるワレモコウやシモツケソウ、秋が来たと思わせるアキノキリンソウの黄色い花、トリカブトやリンドウの青い花など色とりどりだが、なぜか白い花が緑の草原に散らばる静かな山の雰囲気が秋らしい感じがする。

一つは陸前高田の背後に横たわる氷上山、登奈孝志荘という無人の避難小屋に一人で泊まった草原。秋らしさを思わせるウメバチソウの白花が広がる祈禱ヶ原の印象が強く浮かんでくる(右写真)。津波で松並木が失われ、一本松が有名になる数年前のことである。

もう一つは今も登山者は少ないというか、ないのではと思う岩手の猴舞山(猿老舞山一〇八八m)。干支の山として登りに行った。この山に登ったのは三十年前。頂上を探すのに苦労して、汗びっしょり。秋らしい涼しい風に吹かれた尾根にヤマハハコの白い花がかたまつて咲いていた(左写真)。いずれも秋の初めの山であった。

山の自由帳

第9回

篠塚優 カモシカスポーツ山の店・松本店



TX キャニオン ¥23,100 (税込)

キャラバンの渓流シューズと比べると特に足回りががっちりしています。ソールも硬めなので、スラブの時はその硬さがどうなるか。まだまだ未知数の靴。



カモシカ溪流保温タビ ¥8,250 (税込)

素足で履いてチャックを締めたら歩き始められる手軽さが◎。足裏の感覚はピカイチです。2足買ってもTXキャニオンより安い!

沢靴のニューフェイス TX キャニオン

加わりました。海外に、TXキャニオンというスポルティバの靴が加わりました。海外

入っていましたし、人によっては年中沢登りをする、なんて話も聞いたことがあります。早くも山域(地域)による違いをひしひしと感じます。

さて、沢登りにかかせない道具である沢靴に、TXキャニオンというスポルティバの靴が加わりました。海外

私は沢登りをするとう登山道を歩く時より疲れるのですが、その原因の一つは重荷を背負って剛性感の低い靴で不整地を歩くことだと思っています。この靴ならそれは軽減されるかも? また、下山時に履きっぱなしでも足首周りがしっかりとれているので心強いです。

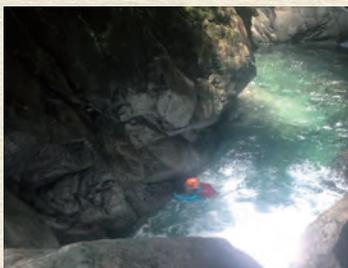
例年より早い梅雨明け宣言がされたものの不安定な天候が続いている夏。でも、晴れた日の日差しはジリジリと暑く、沢登りが恋しくなります。そういえば松本店に来てから、沢登りの相談を受けることがとても少ないです。考えてみるとこの辺で沢登りの対象になる谷は、遅くまで源頭に雪渓が残っていて、早い時期では処理が難しかったり、水温が低かったり、そもそも標高が高いために気温自体も低いので寒かったり。そのため沢登りの適期が短く、沢登りをする人が少ないのかもしれない。

には沢登りの文化がもともとなく、名前のとおりキャニオニング向けに作られたものなのですが、沢登りでも使えるのでは? ということでお店に置くことになりました。カモシカで扱っている沢靴はキャラバンの溪流シューズ(フェルトソールとラバーソールの2種類)とオリジナルの溪流保温タビですが、そのいずれも、靴の剛性感は低めです。



米子沢 (巻機山魚野川水系)

7月号に掲載されていた米子沢。ここはナメや滝の美しい良溪で過去に紅葉の時期に2度訪れました。紅葉のなかの沢登りは夏とはまた違った美しさがあります。にしても10年前の私、ポーズが若い!



ホラノ貝ゴルジュ (奥秩父笛吹川水系)

夏は沢だ! 泳ぐぞ! となっていた頃。沢の水の色は季節によって違うのですが(と思っているのは私だけかな?)、私は真夏の色が一番好きです。ただ、泳ぎの沢に行くと、唇が紫色だよってよく言われていました。夏でも寒い!



赤石沢 (南アルプス大井川水系)

私が人生で一番絶望感を味わったともいえる場所。私の渡渉をフォローしたパートナーが右の水流に流されました。何事もなくよかったです、今思い出しても鮮明な絶望感を味わえます。ちなみに、この5年後に無事遡行することができました。



大事なものを、 揃っています。

「登山用品専門店」だからこそ
出来る品揃えと接客サービスで
安全快適な山行をサポート。

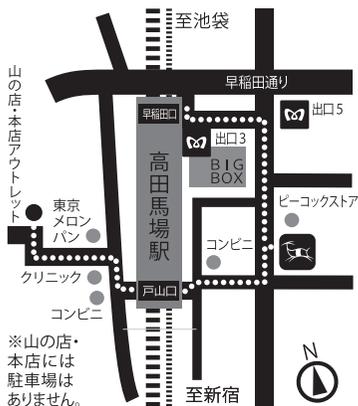


カモシカ 通販

オンラインショップ24hrオープン! / こだわりアイテムと充実の品ぞろえをネットから!

山の店・本店

JR高田馬場駅から徒歩3分



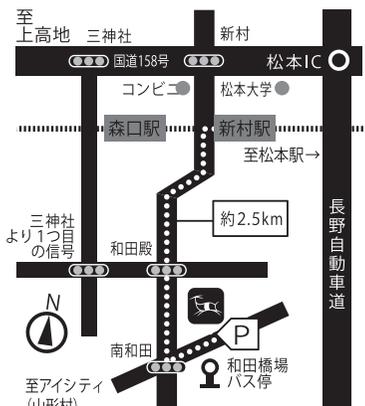
山の店・横浜店

JR横浜駅東口から徒歩5分



山の店・松本店

松本ICから約6km



登山用品専門店 カモシカスポーツ

本店・横浜店 OPEN 11:00 CLOSE 19:30(月~金)/19:00(土日祝) 松本店 OPEN 10:30 CLOSE 19:00

- 山の店・本店 TEL 03-3232-1121 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-28-6・2F
- 山の店・横浜店 TEL 045-440-0711 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島2-6-32横浜東口・ウイスポーツビル1F
- 山の店・松本店 TEL 0263-48-2424 〒390-1242 長野県松本市和田4478-1

ハイキング A・B・C

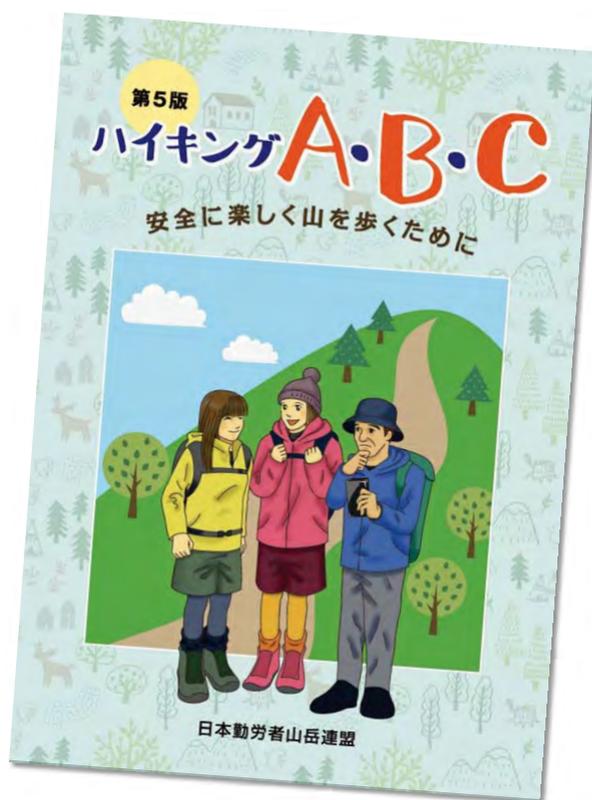
第5版

8月31日入荷予定

1991年の初版発行以来、全国で長年愛用されてきた労山の初心者用テキストが新しくなりました。

主な改訂点は「登山・ハイキングにスマホをどう活用するか」。

他にもネットを使った地図や気象情報の取得など、新しい内容を盛り込みました。



B5判 1部 300円

労山会員・加盟団体は送料無料

30部以上まとめのご注文は、1部につき250円

書名・部数・団体名・送付先を明記し、FAXまたはメールで下記へお申込み下さい

全国連盟事務局 FAX:03-3235-4324 メール:jwaf@jwaf.jp